九州大学

School of Education,
Kyushu University

九州大学教育学部案内
2023

School of Education, Kyushu University

2023年度

九州大学 教育学部案内

SCHOOL OF EDUCATION, KYUSHU UNIVERSITY

CONTENTS

学部長挨拶 …… 1
3ポリシー …… 2
入学試験 …… 5
教育学部の5つの特徴 …… 6
教育学部の4年間の学び …… 8
　教育学部1年生 …… 8
　教育学部2年生以降 …… 8
　教育学部の4年間の履修概要 …… 8
　教育学部の4つのコース …… 9
　学部開講科目 …… 10
　履修モデル①　教育学系 …… 12
　履修モデル②　教育心理学系 …… 13
　国際コース …… 14
　人社系4学部「副専攻プログラム」 …… 16
共に学び、知を高めあう 教育学部の教員紹介 …… 18
教育学部の高大接続 …… 26
教育学部の国際化 …… 27
資格取得 …… 30
　①教育職員免許状 …… 30
　②社会教育主事・社会教育士 …… 31
　③社会調査士 …… 31
　④公認心理師 …… 32
学生の声 …… 33
教育学部の施設紹介 …… 35
教育学部の沿革 …… 36
Q&A・アクセスマップ …… 37

学部長挨拶

九州大学 教育学部長
橋 彌 HASHIYA Kazuhide 和 秀

九州大学教育学部は、1925年に設置された九州帝国大学法文学部教育学講座を前身として1949年に開設されて以来、これまで2800名余の卒業生を輩出してきました。卒業生の皆さんは、一般企業や、省庁の国家公務員、地方公務員、国連等の国際機関職員、ジャーナリストなど、国内外で活躍されています。学部専門教育に併設される教職課程を経て高等学校の教員となる方もいらっしゃいますし、九州大学人間環境学府をはじめ大学院に進学して、修士・博士の学位を取得後、国内外の大学や研究機関等の教員や研究者、あるいは臨床・実践の専門家として活躍している方も多くいらっしゃいます。

「教育」というのは、きわめて人間的な営為です。蓄積された知識や技能、あるいはその革新的な変化を、個人から個人へ、個人から集団へ、集団から集団へと、歴史性を内包しながら経時的に繋いでゆく。そして、それらの営みが制度化されたものも「教育」です。このシステムは、ヒトという生物をヒトたらしめ、社会や文化の基盤となって未来を拓くものであり得ると同時に、（ときには「善意」のもとにあってすら）他者の同化や同調を強い、自発性や多様性を奪ってしまう、ある種の「暴力性」を孕むものでもあります。自覚的に教育に関わるということは、この両刃の剣のような教育の可能性と危険性とを胸に刻みながら、それでも、可能性を信じて「歴史」を繋ぐ覚悟を持つ、ということなのかもしれません。

九州大学教育学部は70年以上に渡って、教育学と心理学とを両輪として、このミッションに挑んできました。集団内・集団間の相互作用を成り立たせるこころの諸様相、その発達と基盤を実証的に解明し、個人を取り巻く家庭や学校を初めとした多様な領域について学び、現代社会におけるさまざまな問題に取り組むとともに、歴史を踏まえてその構造を究明し探求する高等教育の拠点となってきました。その根幹は、第二次世界大戦の反省に立ち、民主的な社会の実現という使命のもとに、九州各県の教育体制の改革と民主的教育思想の普及に取り組んできた設立当初の思想を継承するものです。

俯瞰的な視点と臨床・実践的な態度とを携えながら教育とこころに関わる問題を探求し学ぶことは、本来的に分野横断的な活動です。また、周辺自治体や学校、コミュニティの皆さんをはじめ、学部の研究教育活動に関わって下さる方々にご協力を賜らなければ成り立ちません。これからも、「理系／文系」というような古色蒼然とした概念に囚われることなく目の前の課題に真摯に取り組みながら、刻々と変化する国際社会や地球全体に目を向け、個人と文化の多様性と普遍性とを踏まえた学生・職員・教員の協働が、学術と実践の両面において教育・心理諸科学の発展に寄与することのできる学部でありたいと思います。そうあることが、貧困、差別、不公正、分断といった、教育やこころに直結する社会的問題を解決し、悩む誰かのほんの少しでもの助けに繋がることを信じたいと思います。

3 POLICY

3ポリシー

1. 教育理念

●教育理念・目標、育成する人材像

九州大学教育学部は、人間に対する深い洞察と共感的態度を基盤に持ちながら、人間と人間のふれあう社会のさまざまな領域において創造的に問題解決できる人材を養成することを目的としています。

教育学部における教育は、人間の発達と形成を軸とする幅広い総合人間科学としての教育学・心理学に関する理論的並びに実践的な基礎教育と専門教育を通じて、具体的には以下の5つのタイプの人材像の育成を想定しています。

1. 学部・大学院（本学部・本学大学院人間環境学府等）の一貫教育を経て、国内外の高等教育機関・研究機関等で教育・研究にたずさわる専門研究者。
2. 学部さらには大学院での教育を経て、各種の教育・福祉機関等において教育・福祉の実践的活動にたずさわる専門職や指導者。
3. 官公庁及び民間企業等で実践的な人材開発や能力開発、また教育分野や心理分野での実践活動にたずさわる専門研究者。
4. 地域社会、さらには国際社会において、ボランティア活動としての教育的活動や福祉的活動にたずさわる専門家や指導者。
5. 心理カウンセラーとして心理相談や心理ケア等の専門的活動にたずさわる専門家や指導者ならびにボランティア活動家。

2. 教育プログラム

教育学部は人間の発達と成長を軸とした総合的な人間科学を目指し、その基本を作っているのは教育学と教育心理学です。この二つの領域を総合的に学びつつ学年進行にともない、その専門性を深めていく方法をとっています。大きく教育学系と教育心理学系にわかれ、さらに教育学系には国際教育文化コースと教育社会計画コース、教育心理学系には人間行動コースと心理臨床コースの4つのコースを置いています。

それぞれのコースの特徴は8ページから11ページをご覧ください。

教育指導体制

授業には、講義、演習（ゼミナール）、実験、調査などいろいろな形態があります。また、演習でも、日本の文献だけでなく外国の文献を講読するようなものもありますし、1つの研究テーマを決めて、そのテーマを演習の参加者全員で追究していくようなものもあります。第3学年の前期終了までに指導教員を選択して、その教員の研究室に入ることになります。そして指導教員の指導のもとでその専門分野の基礎的な学習をしつつ、自分の研究テーマを見つけます。そして卒業論文のための調査や実験を重ねて、卒業論文を書くことになります。

●ディプロマ・ポリシー

教育の目的

人間の形成、発達、成長という現代社会における重要課題について、学際的な視野から問題把握をする総合人間科学としての教育学・心理学に関する基礎知識を身につけ、教育、援助の開発の技法やプロセスについての実践的批判的な理解を有し、教育に携わる広義的な意味での専門職としての技量を獲得させることを目的としています。個別には次のような能力と技能を育成しています。

1. 人間行動や社会の様態を抽出しうる、調査分析等の専門的技能
2. 既存の知識や理論に安住しない批判的思考力
3. 社会制度や慣行、文化や思想など教育の基盤的システムの考察および探究の方法
4. 教育や発達に関わる援助や対処の技法、制度やシステムの開発、改革のプラン策定などのための基礎的知識と技能
5. 人間や社会の問題に対する感受性および共感性

そのうえで、多様な職業背景や実生活に適用可能な、自然科学・社会科学・人文科学の考え方を理解し、専門職にふさわしい能力を有する、自由で柔軟な発想力、思考力、実践力を有した人材を育成しています。

国際コース ディプロマ・ポリシー

グローバル社会において、より良い教育と学習の実現を目指す実践家や専門家、研究者として、国際的な場で活躍するための基盤、即ち教育学と心理学双方にわたる幅広い視野と基礎知識の習得、国際的なコミュニケーション能力と多様な文化の理解、現場の諸問題を分析・探究・解決するための基礎的能力を備えた人材を養成しています。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、カリキュラム・マップの通り、教育課程を編成しています（カリキュラム・マップは教育学部ホームページにてご覧いただけます）。

アクティブ・ラーニングを重視する科目（基幹教育セミナー、課題協学）、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目（サイバーセキュリティー基礎論）、教養としての言語運用能力習得と異文化理解を目指す科目（学術英語、初修外国語）、専攻教育を通して英語力習得を目指す科目（専門英語）、専攻教育につながる基礎的知識と様々な分野の思考法を学ぶ科目（文系ディシプリン、理系ディシプリン）、ライフスキルの向上を目指す科目（健康・スポーツ）、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目（総合、高年次基幹教育）などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働」を培います。

教育学部は人間の発達と成長を軸とした総合的な人間科学を目指しており、その基本を教育学と教育心理学に求め、この二つの領域を総合的に学びつつ学年進行にともない、その専門性を深めていきます。

基幹教育の基盤の上に、教育学系では、①教育学の基本的な知識と最先端の研究動向の理解を目的とする講義、②研究・教育方法を体験的に学ぶための（ア）講読演習、（イ）量的・質的研究法に関する演習、（ウ）フィールド等における実践的演習、③学修の成果を自らが行う研究活動として結実させ、論文にする卒業論文作成を通して、①教育の原理と基本概念の理解、②教育の目的論的探究の理解、③教育の歴史的・制度的展開と社会・文化的多様性の理解、④学習過程とそれへの教育的介入の理解、⑤教育事象と社会的事象との相互関係の理解を促し、①教育学に固有の能力としての（ア）市民生活上求められる基本的な能力、（イ）職業上求められる基本的な能力の修得、②汎用的技能としての（ア）自分の意見を発信する能力、（イ）データを適切に分析・解釈する能力、（ウ）社会現実を批判的に検討し、代案を模索する能力、（エ）人間や社会のあり方について原理的に考察する能力、（オ）立場や背景の異なる他者と協働する能力を育成します。

教育心理学系では、①心理学の潮流と心の科学への取組みの基礎的理解を目的とする講義、②心を研究する学問知とフィールド知の双方向性を理解する演習、③研究手法の技術修得を目標とする実習科目としての実験・実習、④学修の成果を自らが行う研究活動として結実させ、論文にする卒業論文作成を通して、①心の機能の理解，②人間に共通する心理的・行動傾向の理解，③心と行動の多様性と普遍性の理解，④心理学の社会的役割，⑤心理学的現象（機構）の理解，⑥心理学諸理論の理解、⑥心理学的測定法と心理アセスメント、⑦心理学実験の修得を促し，（ア）人間を総体として客観的に理解する能力、（イ）心の多様性と普遍性を理解する能力、（ウ）人間と環境との交互作用を理解する能力、（エ）人間に関する専門職業人として社会貢献する能力の修得，汎用的技能としての、（ア）人間を複眼的に見る力、（イ）批判的実証的態度、（ウ）問題発見・解決能力、（エ）コミュニケーション能力を育成します。

3. アドミッションポリシー

求める学生像（求める能力、適性等）

教育学部は人間の発達と成長を軸とした総合的な人間科学を学ぶところであり、人間に対する高い関心を持っていることが大切な要件です。
入学後にも、人間に関係する社会科学、人文科学、自然科学を学び続けるために、次のような特徴を持った学生を求めています。

1. 人間の教育や成長について学問的観点から科学的に考えることに興味と意欲があること。
2. いろいろな観点（ものの見方や考え方、価値観）や見地（異文化や国際的視点）に立って、多面的に議論し、考察ができること。
3. 基礎的な学力を十分に持っていること。そして入学後も、専門的な知識や能力の習得に、着実に取り組めること。
4. 知識を深め、視野を広げ、事実をもとに自分の着想と論点を構築し、まとめ、発表することを継続的に行えること。

入学者選抜の基本方針（入学要件、選抜方式、選抜基準等）

前記の求める要件が満たされていることを確認するための選抜を行ないます。

1 一般選抜（募集人員：36人）

一般選抜においては、高校における主要科目全般の総合的な学力を重視します。入学者の選抜は、大学入学共通テストの成績とともに、前期日程における個別学力検査（国語、数学、外国語）、および調査書の内容により行ないます。教育学部では後期日程を実施しません。

教育学部の大学入学共通テストおよび個別学力検査等の配点は右の通りです。

	国語	地理歴史及び公民	数学	理科	外国語	面接	合計
大学入学共通テスト	100	100	100	50	100	–	450
前期日程	200	–	200	–	200	–	600
計	300	100	300	50	200	–	1050

（出典：九州大学学務部発行「入学者選抜概要」2022年度版より）

2 総合型選抜（募集人員：7人）

総合型選抜においては、大学入学共通テストを免除し、第一次選抜及び第二次選抜を行ないます。第一次選抜では、①小論文試験②提出された調査書又は調査書に代わる書類の総合評価により選抜を行ないます。第二次選抜では、第一次選抜の合格者に対し、指定課題についてのプレゼンテーションを課し、それに基づく面接試験を行ないます。なお、指定課題は試験当日に提示します。

試験では、優れた基礎学力を持つとともに、主体的に課題を設定し社会における様々な事象に関心を持ち、それらについて明快な議論を構成し他者と能動的にコミュニケーションできる能力を重視します。

出願期間は9月下旬の一週間程度で、選抜は第一次選抜が10月、第二次が11月に行なわれます。

3 国際入試（募集人員：3人）

国際入試においては、多様な社会と文化を多面的に深く理解する能力と異文化圏の人々との交流に対する強い関心を重視します。

日本や海外の高校生を始め、帰国生徒及び私費外国人留学生を対象に、調査書、学力を示す成績証明書（帰国子女及び私費外国人留学生）、日本語等の言語運用能力証明書（私費外国人留学生）、小論文、プレゼンテーション、面接等により選抜します。

入学試験に関するお問い合わせ先

※入学試験は、改められる可能性があります。詳しい情報は入試課にお問い合わせ下さい。

九州大学学務部入試課　電話／092-802-2004, 2005, 2007
（月曜日から金曜日 8:30-17:00 祝日は除く）
〒819-0395 福岡市西区元岡744

※電話によるお問い合わせは、原則として志願者本人が行なってください。

ENTRANCE EXAMINATION

入学試験

入試について

- 4月 入学
- 3月中旬 入学手続き期間（予定）
- 3月上旬 合格者発表（予定） 一般選抜
- 2月下旬 一般選抜個別学力検査（予定）
- 1月下旬～2月上旬 一般選抜個別学力検査願書受付（予定）
- 1月下旬 合格者発表（予定） 国際入試
- 1月中旬 大学入学共通テスト
- 12月下旬 合格者発表（予定） 総合型選抜
- 11月末 国際入試 第2次選抜（予定）
  総合型選抜第2次選抜（予定）
- 11月上旬 総合型選抜・国際入試 第1次選抜 合格発表（予定）
- 10月中旬 総合型選抜第1次選抜（予定）
- 10月上旬 大学入学共通テストの出願
- 9月中旬 総合型選抜・国際入試願書受付（予定）
- 8月上旬 オープンキャンパス・高校生のためのリサーチトライアルin教育学部

FIVE FEATURES

教育学部の5つの特徴

1 徹底した少人数教育

九州大学教育学部は1学年50人程度の小規模の学部のため、講義1クラスあたりの人数も少なく教員と近い距離で講義を受講することができます。研究室配属に際しても、各研究室は、上限3名ないし4名の少人数教育が受けられ、ほぼマンツーマンに近い形で研究指導が受けられることができます。第3学年の前期に指導教員を選択して、その教員の研究室に所属することになります。そして指導教員の指導のもとでその専門分野の基礎的な学修をしつつ、自分の研究テーマを見つけます。そして卒業論文のための調査や実験を重ねて、卒業論文を書くことになります。

2 教育課程の国際化

ロックフェラー財団の寄付で設立された九州大学教育学部附属比較教育文化施設（1955-1996）の伝統を元に、九州大学教育学部は、海外の教育事情について多くの優れた研究実績を有し、グローバル人材の育成に取り組んできました。2019年には九州大学教育学部国際コースを開設し、英語で学べる講義演習科目の設置、英語での卒業論文の執筆、中国・台湾・タイ・ベトナムへの海外フィールドワーク（7泊8日）、モンゴルへの海外インターンシップ（2週間）の科目を開講し、海外の教育機関の訪問の機会を設けることで、毎年多くの学生が海外経験を積んでいます。

3 理論と実践の往還を踏まえた授業科目

九州大学教育学部には、教育フィールド研究系列という科目群（教育学フィールド研究入門、教育学フィールド研究演習I・II、教育と職業演習）が設置されています。様々な機会を通して、教育現場に赴く機会が設けられています。大学で勉強した、教育学・教育心理学の理論を通して自身に構築されたものの見方が実際の教育現場で、どのような形で応用可能なのか、あるいは、現場で見聞きした教育体験が、どのように教育学・教育心理学の理論で説明できるのか、を考える機会があります。また、教育実践学I・II演習では、福岡県教育センターとの連携協定に基づき、現在の教育現場で重要となっているテーマや課題に沿って、関連した講師をセンターよりオムニバス形式で招き、講義・ディスカッションを行っています。

4 研究を行うための専門的知識と技術の修得

教育学部では、研究を行う上で必要な知識とスキルを身につけるための科目を幅広く用意しています。

例えば、教育学系では、2年次の必修科目である「教育学文献講読」において、教育学のさまざまな領域や方法についての知識やスキルを学ぶための基礎として、研究文献を読み、それを理解し、課題解明の過程を検証し、批判するという研究文献講読のプロセスを体験し、研究課題を自ら見出し、追究していくことのできる能力を養います。教育学フィールド研究入門は、教育学研究の諸領域、諸分野の研究課題を横断的に紹介しながら、卒業論文等で、教育分野のフィールド研究方法を行う学生に対して、方法論的な基礎的な素養や研究倫理を培います。

教育心理学系の2年次の必修科目である「心理学研究法」では、心理学の研究を行うために発達心理学や社会心理学、教育心理学の分野ごとの実験法、フィールドワークなどの観察法、アンケートを行うための調査法などの知識を身につけ、またそれを研究で活かすための実習も行っています。

5 講義で学んだ知識を応用的に発展させる演習科目

教育学部の専門科目では、講義科目と同程度の数の演習科目を開講しています。

教育学系では、講義科目で学んだ教育学の理論や重要研究を知識として修得するだけではなく、各々の領域の演習科目において、参与観察、エスノグラフィー、インタビュー、会話分析、統計データ分析などの質的・量的研究の方法、理論研究、資史料やデータの分析や解釈の方法などを、論文講読やフィールドワークなどを通して学んでいきます。

教育心理学系では、講義科目で学んだ心理学の理論や重要研究を知識として獲得するだけでなく、それを実習やロールプレイ、グループワーク、論文講読などを通じて応用的かつ多角的に習得していきます。例えば、3年次の「心理テスト法演習」では、パーソナリティ検査や知能検査、発達検査などを実際に体験しながら学んでいきます。

4 YEARS OF LEARNING

教育学部の4年間の学び

■ 教育学部1年生

1 年生は、基幹教育科目として、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目などの科目を学んで、幅広い知識と教養を身につけます。同時に、教育学や教育心理学の専門科目も履修できるようにカリキュラムを構成しています。また、専攻教育科目として教育学・教育心理学概説Ⅰ・Ⅱの講義を行います。

教育学部教員が担当する基幹教育科目

【文系ディシプリン科目】必修科目（1 年次に開講）、現代教育学入門、教育基礎学入門、心理学入門

【総合科目】女性学・男性学Ⅰ・Ⅱ、教育テスト論、アクセシビリティ基礎、アクセシビリティ支援入門、アクセシビリティ入門、バリアフリー支援入門、ユニバーサルデザイン研究

■ 教育学部2年生以降

2 年生から、いよいよ専門科目を学ぶようになります。教育学部には2つの系と 4 つのコースがあり、3 年前期に、研究室訪問、専攻科目（指導教員）希望調査、教員面接、専攻科目（指導教員）申告を経て、系、専攻科目（指導教員）、コースが決定されます。

教育学部教員が担当する基幹教育科目

【高年次基幹教育科目】教育学特論、教育心理学特論（教育・学校心理学）、アクセシビリティマネジメント研究

■ 教育学部の4年間の履修概要

教育学部における標準的履修と「系」及び「専攻科目」（コース）決定の必要条件とその手順の概要

<table>
<tr><td colspan="3">学年</td><td colspan="2">1年次</td><td colspan="2">2年次</td><td colspan="2">3年次</td><td colspan="2">4年次</td></tr>
<tr><td colspan="3">学期</td><td>前期（春・夏学期）</td><td>後期（秋・冬学期）</td><td>前期（春・夏学期）</td><td>後期（秋・冬学期）</td><td>前期（春・夏学期）</td><td>後期（秋・冬学期）</td><td>前期（春・夏学期）</td><td>後期（秋・冬学期）</td></tr>
<tr><td colspan="3">基幹教育科目</td><td colspan="2">所定単位の修得
（進級要件あり）</td><td colspan="6">所定単位の修得（高年次基幹教育科目から2単位　他）</td></tr>
<tr><td rowspan="8">専攻教育科目</td><td rowspan="2">必修科目</td><td>教育</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td>教育学文献講読
（春学期）
教育学フィールド研究入門</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">卒業論文
指導演習</td><td rowspan="2">卒業論文演習</td></tr>
<tr><td>心理</td><td></td><td>心理学研究法</td><td></td><td>心理学実験</td></tr>
<tr><td rowspan="2">選択必修科目</td><td>教育</td><td colspan="2"></td><td colspan="6">教育心理学系の選択科目から8単位</td></tr>
<tr><td>心理</td><td colspan="2"></td><td colspan="6">教育学系の選択科目から8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択科目</td><td>共通</td><td>教育学・教育心理学概説Ⅰ</td><td>教育学・教育心理学概説Ⅱ</td><td colspan="6">所属する系の選択科目に含むことができる</td></tr>
<tr><td>教育</td><td colspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">［系及び専攻科目（指導教員）申告要件］
①各系で開設する選択科目からそれぞれ2科目4単位、合計4科目8単位以上
②上記に加えて、教育学系を希望する場合は「教育学文献講読」、教育心理学系を希望する場合は「心理学研究法」を修得</td><td colspan="2" rowspan="2">［卒業論文提出の要件］
①基幹教育科目42単位以上
②専攻教育科目32単位以上
（所属する系の必修科目（教育:4、心理:3）、選択科目（教育:28、心理:29）</td><td colspan="2" rowspan="2">［卒業要件］
所属する系の選択科目から
（教育）36単位以上
（心理）37単位以上</td></tr>
<tr><td>心理</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">自由科目</td><td colspan="2"></td><td colspan="6">［卒業要件:18単位以上修得］
・教育学部の必修科目、選択必修科目、選択科目として履修した科目を除く
・他学部の専攻教育科目</td></tr>
</table>

（注1）　　の科目については、教育学系、教育心理学系にかかわらず全員必修

（注2）教育心理学系を志望する学生は、次の科目を履修すること。

＊「心理学統計法」（2年後期）

＊「心理テスト法演習」（心理的アセスメント）、「教育測定・評価演習（心理学研究法）」（3年前期）

・研究室訪問
・専攻科目（指導教員）希望調査

6月　専攻科目（指導教員）決定

・教員面接
・専攻科目（指導教員）申告

■教育学部の4つのコース

系選択・専攻決定

教育学系では、教育の本質や目的、内容・方法や制度、また人間形成の過程や条件を学びますが、教育学系は、さらに「国際教育文化コース」と「教育社会計画コース」という2つのコースに分かれています。

教育心理学系では、人間の行動や意識、知識や学習、人格や適応、発達障害や心身障害などについて学びますが、教育心理学系は、さらに「人間行動コース」と「心理臨床コース」の2つのコースに分かれています。

教育学系

国際教育文化コース

教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していく当のものである。「国際化時代の教育」という言葉一つとってみても、その言葉が、どこの地域のどこの国の立場による言説なのか、ということを踏まえれば、包括的な定義を与えることすら困難である、という事態に直面するだろう。本コースでは、こうした国際社会への認識を基盤として、世界の中心・周縁を戦略的にずらしていきながら、この社会における教育と文化に関する視座を獲得することを目的とする。欧米のみならず、アジアや日本の教育哲学・教育人間学の研究、比較教育学・教育人類学、教育政治学・異文化教育論・シティズンシップ教育の研究、諸外国及びわが国における授業研究や教授法の改善などの研究を行う。

教育社会計画コース

教育学系授業風景

社会科学としての教育学は今日、多様な広がりと深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させている。そうした複眼的視座から蓄積されてきた現代教育学においては、単眼的視座からの課題解決が良しとされず、むしろ、その前提を問い直す、あるいは、提起された教育課題の解決が別の新たな教育問題を引き起こすといった社会矛盾を解き明かすことによって、教育計画の在り方を根源的に議論してきた。本コースでは、教育学の対象である社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化などの多様なテーマを学問の言葉と視線をもって経験することを目的とする。そのために、現象分析としての量的調査や質的調査の手法、その教育現象の淵源を問う歴史的手法、制度分析に欠かせない法律学、経済学的手法など、社会科学としての方法論の基礎を学びながら、学校教育や各教育制度間の接続のみならず、乳幼児、学齢期の子ども、若者、成人や高齢者の教育や福祉との接点、それらを支える基盤や諸関係を対象とし、研究を行う。

教育心理学系

人間行動コース

このコースでは、幅広い心理学の視点と知識に基づき、今日の社会変動で生じるさまざまな問題に対処していけるような専門家の育成をめざしています。教育・研究の事項には、子どもの知識・規範の習得過程、生涯にわたる心身の構造の変化の過程、集団の中での意識や行動のしかた、環境による認識や行動のちがいなどがあります。例えば、学級の中でのより効果的な学習方法を模索したり、人生のそれぞれのステージでの心と体の関係を解きほぐしてみたりすることもできます。また、学級、学校、会社などの組織の中での人間関係の問題がどういうふうになっているかなども興味深い課題です。

心理臨床コース

心理系実験室

このコースでは、心に悩みをもつ人たちや、身体に障害のある人たちを理解し、問題解決に導くことのできる、心の専門家の育成をめざしています。教育・研究の事項は、高度産業社会におけるストレス、心理的葛藤、また家庭内暴力、不登校、非行、犯罪などの問題行動や発達障害を持つ人々への援助や対処の技法の理論的・実践的な開発です。例えば、職場や家庭などでのいろいろな悩みを抱えて困っている人の相談に乗るカウンセリングの技法を開発したり、不登校のように学校で疎外された子どもたちの心のケアをする技術を学ぶことができます。また、障害を持った人たちが少しでも社会的な活動に参加できるような支援の技法の習得もできます。

■ 学部開講科目

教育学系開講科目（学生便覧より）

国際教育文化コース

解釈学的教育学	日本植民地教育史	比較文化論
解釈学的教育学演習	日本植民地教育史演習	比較文化論演習
教育哲学概論Ⅰ	国際教育制度論	教育人類学概論
教育哲学概論Ⅰ演習	国際教育制度論演習	教育人類学概論演習
教育哲学特論Ⅰ	比較教育思想論	社会人類学
教育哲学特論Ⅰ演習	比較教育思想論演習	社会人類学演習
批判的教育学	異文化間教育論	子ども文化論
批判的教育学演習	異文化間教育論演習	子ども文化論演習
教育哲学概論Ⅱ	異文化理解の教育	教育環境人間論
教育哲学概論Ⅱ演習	異文化理解の教育演習	教育環境人間論演習
教育哲学特論Ⅱ	Citizenship Education in Contemporary AsiaⅠ	学びと育ちの環境学
教育哲学特論Ⅱ演習	Citizenship Education in Contemporary AsiaⅡ	学びと育ちの環境学演習
教育倫理学	Democracy and EducationⅠ	教育環境学研究法
教育倫理学演習	Democracy and EducationⅡ	教育環境学研究法演習
比較教育学概論Ⅰ	Education and PoliticsⅠ	教育環境行動学
比較教育学概論Ⅰ演習	Education and PoliticsⅡ	教育環境行動学演習
比較教育学特論Ⅰ	授業研究方法論	教育学フィールド研究入門
比較教育学特論Ⅰ演習	授業研究方法論演習	教育学フィールド研究演習Ⅰ
国際教育論Ⅰ	教育課程・カリキュラム論	教育学フィールド研究演習Ⅱ
国際教育論Ⅰ演習	教育課程・カリキュラム論演習	教育実践学Ⅰ演習
Education and Modern State Formation in Asia and Europe (lectures)Ⅰ	学習指導・教育方法論	教育実践学Ⅱ演習
Education and Modern State Formation in Asia and Europe (lectures)Ⅱ	学習指導・教育方法論演習	国際教育文化コース特講Ⅰ
Education and Modern State Formation in Asia and Europe (lectures)Ⅲ	教授ストラテジー論	国際教育文化コース特講Ⅱ
International Perspectives on Japanese Education (reading class)Ⅰ	教授ストラテジー論演習	国際教育文化コース特講Ⅲ
International Perspectives on Japanese Education (reading class)Ⅱ	人間開発論	学校インターンシップⅠ
Images of Japan across Contemporary East Asia	人間開発論演習	学校インターンシップⅡ
比較教育学概論Ⅱ	学習輔成論	Overseas InternshipⅠ
比較教育学概論Ⅱ演習	学習輔成論演習	Overseas InternshipⅡ
比較教育学特論Ⅱ	教育情報工学	Overseas FieldworkⅠ
比較教育学特論Ⅱ演習	教育情報工学演習	Overseas FieldworkⅡ
国際教育論Ⅱ	教育システムデザイン	Overseas CourseworkⅠ
国際教育論Ⅱ演習	教育システムデザイン演習	Overseas CourseworkⅡ
比較教育文化論	教育情報研究方法論	社会連携活動（海外）Ⅰ
比較教育文化論演習	教育情報研究方法論演習	社会連携活動（海外）Ⅱ
アジアの教育	文化人類学	
アジアの教育演習	文化人類学演習	

教育社会計画コース

教育史概論	教育財政学演習	教育評価論	まちづくり基礎論演習
教育史概論演習	教育制度学	教育評価論演習	教育とコミュニケーションデザイン
教育社会史	教育制度学演習	教育情報処理	教育とコミュニケーションデザイン演習
教育社会史演習	地域教育社会学	教育情報処理演習	まちづくり実践論
教育社会思想史	地域教育社会学演習	教育学説論	まちづくり実践論演習
教育社会思想史演習	教育社会学概論Ⅰ	教育学説論演習	教育学フィールド研究入門
教育文化史	教育社会学概論Ⅰ演習	教育構造論	教育学フィールド研究演習Ⅰ
教育文化史演習	教育調査法Ⅰ	教育構造論演習	教育学フィールド研究演習Ⅱ
教育文化思想史	教育調査法Ⅰ演習	教育実践分析学	教育実践学Ⅰ演習
教育文化思想史演習	発達社会学	教育実践分析学演習	教育実践学Ⅱ演習
教育関係史	発達社会学演習	社会教育史	教育社会計画コース特講Ⅰ
教育関係史演習	教育組織社会学	社会教育史演習	教育社会計画コース特講Ⅱ
教育法学	教育組織社会学演習	社会教育方法論	教育社会計画コース特講Ⅲ
教育法学演習	教育社会学概論Ⅱ	社会教育方法論演習	学校インターンシップⅠ
教育法社会学	教育社会学概論Ⅱ演習	社会教育編成論	学校インターンシップⅡ
教育法社会学演習	教育調査法Ⅱ	社会教育編成論演習	Overseas InternshipⅠ
教育政策学	教育調査法Ⅱ演習	生涯学習概論	Overseas InternshipⅡ
教育政策学演習	高等教育論	生涯学習概論演習	Overseas FieldworkⅠ
教育経済学	高等教育論演習	社会教育行政	Overseas FieldworkⅡ
教育経済学演習	教育と職業	社会教育行政演習	Overseas CourseworkⅠ
教育行政学	教育と職業演習	社会教育施設論	Overseas CourseworkⅡ
教育行政学演習	教育統計学	社会教育施設論演習	社会連携活動（海外）Ⅰ
学校経営学	教育統計学演習	マスコミュニケーションⅠ	社会連携活動（海外）Ⅱ
学校経営学演習	教育計画論	マスコミュニケーションⅡ	
教育財政学	教育計画論演習	まちづくり基礎論	

教育心理学系開講科目（学生便覧より）

人間行動コース

学習・発達学講義Ⅰ（発達心理学）	発達心理学講義Ⅳ（発達心理学）	コミュニティ心理学演習（社会・集団・家族心理学）
学習・発達学講義Ⅱ	発達心理学Ⅱ演習（発達心理学）	心理学統計法
人格・社会心理学講義Ⅰ（感情・人格心理学）	対人相互作用論演習（学習・言語心理学）	心理学概論
人格・社会心理学講義Ⅱ	行動発達学演習（発達心理学）	心理学講義Ⅰ（知覚・認知心理学）
自己過程心理学演習（感情・人格心理学）	発達心理学Ⅲ演習（学習・言語心理学）	心理学講義Ⅱ（知覚・認知心理学）
学習心理学演習	社会心理学講義Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	心理学講義Ⅲ（知覚・認知心理学）
認知発達学演習（発達心理学）	社会心理学講義Ⅱ（社会・集団・家族心理学）	心理学講義Ⅳ（知覚・認知心理学）
教育測定・評価演習（心理学研究法）	社会心理学講義Ⅲ（産業・組織心理学）	心理学講義Ⅴ（神経・生理心理学）
教授心理学講義Ⅰ	社会心理学講義Ⅳ（産業・組織心理学）	心理学講義Ⅵ（神経・生理心理学）
教授心理学講義Ⅱ	社会心理学Ⅰ演習（社会・集団・家族心理学）	心理学講義Ⅶ（司法・犯罪心理学）
教育心理学講義Ⅰ（教育・学校心理学）	人間関係論演習（社会・集団・家族心理学）	心理学講義Ⅷ（司法・犯罪心理学）
教育心理学講義Ⅱ（教育・学校心理学）	リーダーシップ論演習（産業・組織心理学）	人間行動コース特講Ⅰ
教育心理学演習（教育・学校心理学）	組織心理学演習（産業・組織心理学）	人間行動コース特講Ⅱ
認知心理学演習	集団心理学講義Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	人間行動コース特講Ⅲ
教授過程心理学演習	集団心理学講義Ⅱ（社会・集団・家族心理学）	公認心理師の職責
モティベーション理論演習（教育・学校心理学）	対人行動学講義Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	人体の構造と機能及び疾病
比較発達心理学講義Ⅰ（発達心理学）	対人行動学講義Ⅱ（社会・集団・家族心理学）	関係行政論
比較発達心理学講義Ⅱ（発達心理学）	社会心理学Ⅱ演習（社会・集団・家族心理学）	心理実習
比較発達心理学講義Ⅲ（学習・言語心理学）	コミュニケーション論演習（社会・集団・家族心理学）	心理演習
比較発達心理学講義Ⅳ（学習・言語心理学）	対人行動・認知額演習（社会・集団・家族心理学）	Overseas InternshipⅠ
発達心理学Ⅰ演習（発達心理学）	集団心理学演習（社会・集団・家族心理学）	Overseas InternshipⅡ
感情心理学演習	環境心理学講義Ⅰ（社会・集団・家族心理学）	Overseas FieldworkⅠ
乳幼児心理学演習（学習・言語心理学）	環境心理学講義Ⅱ	Overseas FieldworkⅡ
児童心理学演習（発達心理学）	コミュニティ論講義Ⅰ	Overseas CourseworkⅠ
青年心理学演習	コミュニティ論講義Ⅱ	Overseas CourseworkⅡ
発達心理学講義Ⅰ（発達心理学）	人間環境心理学演習	社会連携活動（海外）Ⅰ
発達心理学講義Ⅱ（発達心理学）	環境行動学演習（社会・集団・家族心理学）	社会連携活動（海外）Ⅱ
発達心理学講義Ⅲ（発達心理学）	キャリアディベロップメント論演習	

心理臨床コース

臨床心理学講義Ⅰ（臨床心理学概論）	発達障害学演習（心理演習）	生涯発達学演習（心理演習）
臨床心理学講義Ⅱ（臨床心理学概論）	発達臨床学講義Ⅳ	臨床家族心理学演習（心理学的支援法）
カウンセリング論講義Ⅰ（臨床心理学概論）	障害児教育学演習	臨床老年期心理学演習（心理学的支援法）
臨床心理学概論演習（心理演習	障害児臨床演習	心理学統計法
グループ・アプローチ論演習（心理学的支援法）	アクセシビリティ心理学講義Ⅰ（障害者・障害児心理学）	心理学概論
心理療法論Ⅰ演習（感情・人格心理学）	アクセシビリティ心理学講義Ⅱ（福祉心理学）	心理学講義Ⅰ（知覚・認知心理学）
カウンセリング論講義Ⅱ（精神疾患とその治療）	アクセシビリティ心理学演習Ⅰ（障害者・障害児心理学）	心理学講義Ⅱ（知覚・認知心理学）
カウンセリング論講義Ⅲ（精神疾患とその治療）	アクセシビリティ実践演習（福祉心理学）	心理学講義Ⅲ（知覚・認知心理学）
パーソナリティ心理学講義Ⅰ（健康・医療心理学）	発達相談学講義Ⅰ（福祉心理学）	心理学講義Ⅳ（知覚・認知心理学）
パーソナリティ心理学講義Ⅱ（健康・医療心理学）	発達相談学講義Ⅱ（福祉心理学）	心理学講義Ⅴ（神経・生理心理学）
心理療法論Ⅱ演習	障害心理学講義Ⅲ（障害者・障害児心理学）	心理学講義Ⅵ（神経・生理心理学）
精神病理学演習（精神疾患とその治療）	障害心理学講義Ⅳ（障害者・障害児心理学）	心理学講義Ⅶ（司法・犯罪心理学）
精神分析学演習	臨床アクション・メソッド論演習（福祉心理学）	心理学講義Ⅷ（司法・犯罪心理学）
医療心理学演習（健康・医療心理学）	障害児発達心理学演習（障害者・障害児心理学）	心理臨床コース特講Ⅰ（心理学的支援法）
臨床心理学講義Ⅲ	障害児臨床学演習（障害者・障害児心理学）	心理臨床コース特講Ⅱ（司法・犯罪心理学）
カウンセリング論講義Ⅳ（感情・人格心理学）	コミュニケーション障害学演習（福祉心理学）	心理臨床コース特講Ⅲ（人体の構造と機能及び疾病）
パーソナリティ心理学講義Ⅲ（心理的アセスメント）	障害心理学講義Ⅰ（障害者・障害児心理学）	公認心理師の職責
パーソナリティ心理学講義Ⅳ（心理学アセスメント）	障害心理学講義Ⅱ（障害者・障害児心理学）	人体の構造と機能及び疾病
家族コミュニケーション論演習	発達相談学講義Ⅲ（障害者・障害児心理学）	関係行政論
臨床パーソナリティ論演習	発達相談学講義Ⅳ（障害者・障害児心理学）	心理実習
心理テスト法演習（心理的アセスメント）	リハビリテーション支援法演習（人体の構造と機能及び疾病）	心理演習
心理アセスメント論演習（心理的アセスメント）	発達臨床心理学演習（心理学的支援法）	Overseas InternshipⅠ
臨床心理学講義Ⅳ（福祉心理学）	運動構造・機能障害学演習（人体の構造と機能及び疾病）	Overseas InternshipⅡ
発達臨床学講義Ⅰ（福祉心理学）	臨床動作学演習（心理学的支援法）	Overseas FieldworkⅠ
発達臨床学講義Ⅱ（福祉心理学）	生涯発達学講義Ⅰ（教育・学校心理学）	Overseas FieldworkⅡ
発達臨床学講義Ⅲ（福祉心理学）	生涯発達学講義Ⅱ（健康・医療心理学）	Overseas CourseworkⅠ
臨床心理学特論演習（心理演習）	生涯発達学講義Ⅲ（心理学的支援法）	Overseas CourseworkⅡ
障害児童学演習（障害者・障害児心理学）	生涯発達学講義Ⅳ（健康・医療心理学）	社会連携活動（海外）Ⅰ
発達援助学演習（障害者・障害児心理学）	臨床思春期・青年期心理学演習（心理演習）	社会連携活動（海外）Ⅱ

■履修モデル①　教育学系

1年次
基幹教育科目の履修
履修科目例）基幹教育セミナー、課題協学科目、現代教育学入門、教育基礎学入門、心理学入門、
社会学入門、文化人類学入門、社会と数理科学、女性学・男性学Ⅰ・Ⅱ、教育テスト論
専攻教育科目「教育学・教育心理学概説Ⅰ・Ⅱ」の履修

副専攻の履修開始
（希望した場合のみ）

この時点では両系の
講義演習科目を履修

2年次
学部共通基礎科目Ⅰ・Ⅱの履修
専攻科目（指導教員）申告や系選択に必要な単位の修得
科目例）教育学文献講読、教育学フィールド研究入門、心理学研究法、心理統計学など
高年次基幹教育科目の履修
例）教育学特論、教育心理学特論

教育学系科目例
教育哲学概論演習
比較教育学概論演習
授業研究方法論演習
教授ストラテジー論
教育情報工学
教育人類学概論
教育社会学概論
教育評価論
教育文化史
教育政策学演習
生涯学習概論
まちづくり基礎論
教育調査法
など

教育フィールド研究系列
教育学フィールド
研究演習Ⅰ・Ⅱ
教育と職業演習
など

3年次
・前期：研究室訪問・専攻科目（指導教員）希望調査
系及び専攻科目（指導教員）の決定
・後期：自分の専攻科目における学習の推進

系選択後も、
教育心理学系の
科目も履修可

4年次
卒業論文の作成
4年間の教育学部での勉学の集大成、
指導教員から日常的な指導・助言を受けながら、論文を作成
意欲と根気をもって立派に完成させよう
①研究テーマの設定
②仮説を立てる
③代表的な方法論を用いて検証

Interview

教育学文献講読

岡 幸江先生　野々村 淑子先生

岡 幸江先生

野々村 淑子先生

Q. まず「教育学文献講読」とはどのような科目なのですか。

一言で表現すると、各担当教員がテーマを基に取り上げた英語・日本語文献をじっくりと読んでいくことを基本スタイルとしています。文献を「読む」とは、高校の国語のように単に内容を理解するだけでなく、文献が持つ背景・趣旨は何か、妥当性を精査する作業です。また、文脈の意味を知識、時に想像力を用いて検証していく事でもあります。例えば、文献に「解放」という言葉があれば、その意味は文献がアメリカの人の為のものか、もしくは日本人・発展途上国の人のものなのかによって、全く異なる意味・解釈がある事を知る、ということです。

Q. なぜ「教育学文献講読」を学ぶ必要があるのでしょうか？

教育学部では、卒業するために卒業論文を執筆する事が求められています。しかし、まずは文献をしっかりと読むことが出来なければ、書くことはできません。従って、教育学文献講読とは、教育学部で学ぶための「基礎中の基礎」の能力を体得するために必要なものだと思います。

Q. どのようなスタイルの授業になるのでしょうか？

教育学文献講読は「ゼミ」形式をとっており、大体担当教員一人につき10人以下の少人数で行われます。担当教員によりスタイルは様々ですが、例えば一つの論文を2～3人に担当してもらい、解釈や疑問点を書いてきてもらいます。それを基に、批判点を出し合い、議論。ぜひ議論を深め、論点を共有する楽しさや喜びをしてもらいたので、その時の学生の趣向や興味に応じて、担当教員と学生が一緒に授業を作っていく授業です。

Q. 高校生へのメッセージをお願いします。

教育学を学ぶことは、当たり前に見ている社会の事象を、教育学という学問のメガネを通じ、新しい視点から見ていくことで、社会を理解し、行動し、生きていく事であると信じています。共にそういう発見の喜びを味わえる仲間を歓迎します。

■履修モデル②　教育心理学系

1年次
基幹教育科目の履修
履修科目例）基幹教育セミナー、課題協学科目、現代教育学入門、教育基礎学入門、心理学入門、
社会学入門、文化人類学入門、社会と数理科学、女性学・男性学Ⅰ・Ⅱ、教育テスト論
専攻教育科目「教育学・教育心理学概説Ⅰ・Ⅱ」

副専攻の履修開始
（希望した場合のみ）

この時点では両系の
講義演習科目を履修

2年次
学部共通基礎科目Ⅰ・Ⅱの履修
専攻科目（指導教員）申告や系選択に必要な単位の修得
科目例）教育学文献講読、教育学フィールド研究入門、心理学研究法、心理統計学など
高年次基幹教育科目の履修
例）教育学特論、教育心理学特論

教育心理学系科目例
学習・発達学講義
社会心理学講義
集団心理学講義
発達心理学講義
環境心理学講義
臨床心理学講義
パーソナリティ心理学講義
障害心理学講義
生涯発達学講義
心理テスト法演習
など

3年次
・前期：研究室訪問・専攻科目（指導教員）希望調査
系及び専攻科目（指導教員）の決定
・後期：自分の専攻科目における学習の推進
心理学実験

系選択後も、
教育学系の
科目も履修可

4年次
卒業論文の作成
4年間の教育学部での勉学の集大成、
指導教員から日常的な指導・助言を受けながら、論文を作成
意欲と根気をもって立派に完成させよう
①研究テーマの設定
②仮説を立てる
③代表的な方法論を用いて検証

Interview

心理学研究法

池田 浩先生

Q. 心理学研究法とはどんな授業ですか

心理学の内容を理解したうえで、次はその心理学の知見がどのような方法を用いて検証できるかを学ぶ授業です。心理学の学問領域には、知識や理論的側面と、方法論的側面があります。心理学研究法では、この方法論的側面を扱い、実際にどのようにしてデータをとるのか、また今ある知識がどのような方法で検証されてきたのかについて学びます。心理学統計法で理論を、心理学研究法で方法を学び、続いて心理学実験では半年をかけて、自らの研究テーマを取り上げ、それを検証するための方法論を検討し、実際にデータをとり、分析し、発表します。その段階を経て、4年生になると最終的な卒業論文に取り組みます。心理学を学習するにあたって、研究法は非常に大切な要素です。実験や研究をしっかり行うことができるように、方法論を学習するこの授業は厳格に行っています。学生にはぜひ真剣に取り組んでもらいたいですね。

Q. 授業のスタイルはどういうものですか

水曜に2コマ連続の授業を行いますが、1つの研究法を2週にわたる授業で取り上げていきます。最初の週では、ある研究法の概要や留意点などを概説する講義形式、次の週では実際に学生間でデータを取り合ったりあるデータを基に分析したりなど実践的な授業を行います。その後、レポートを提出したのちに、次の研究法に入ります。それぞれの研究法を得意としている先生方が、その2週にわたる授業を担当するので、研究法ごとに担当教員が替わっていきます。

Q. 心理学研究法に向けて、取り組んでおくべきことはありますか

特にありませんが、その前にあった心理学統計法をしっかり学んできてください。数字ばかりでなぜこのようなものをやらされているのだろうと思うかもしれませんが、その統計学は研究のベースになるものです。研究を行うときは、研究のデザインを考えます。統計学にはそのプロトタイプがあるので、統計学を臨機応変に使えるようになれば、適切なデザインがはっきり見えるようになるのです。

Q. 高校生へ何かメッセージをお願いします。

心理学に文学的、もしかすると宗教的なイメージを抱いている人がいるかもしれません。しかし心理学は科学的です。仮説を立て、データをとり、その数値を基に客観的考察を行うのです。入学してから自分のイメージと違うと焦ってしまわないように、心理学がどういうものなのか、事前に調べたり勉強したりしてみてください。

INTERNATIONAL COURSE

国際コース

国際コース概要

教育理念・目標、育成する人材像

教育学部が国際的視野に立った教育学・心理学の教育・研究の拠点として発展を続けるために、とくにアジア地域で活躍できる多面的・越境的視野の豊かな人材の育成を目的としています。

①教育学部の国際コースでは、海外、とくにアジア諸国における教育、心理、発達等の特徴と問題点を文化的多様性の観点から学ぶカリキュラムを履修します。一部の授業は英語を主要言語として行われます。

②海外から教育学部に留学する外国人学生と交流しながら、ともに学びます。

③海外フィールドワーク、または海外インターンシップに参加して、海外協定校の学生、教員、研究者らと交流しながら学びます。

④英語による卒業論文を作成するとともに、国際学会等における研究成果の発表を目指します。

国際コースの指導体制

第2学年より国際コースのカリキュラムを履修しながら、海外フィールドワーク、または海外インターンシップに参加する準備を進めます。国際コースに在籍していても、コース外の学生と同様、教育学部が提供する多くの授業科目を履修することが可能です。第3学年前期に国際コースを担当する教員の研究室に所属し、教員の指導のもとに国際社会や文化的多様性等を視野に入れた研究課題について調査研究を始め、教育心理学系では英語による卒業論文、教育学系では国際的な視野に基づく英語または日本語の卒業論文を作成します。在学中の国際学会等における研究成果の発表も支援されます。

※国際入試の合格者のみならず、一般入試（前期）による入学者についても、国際コースのカリキュラムを履修することを希望できます。

国際入試では、国際社会に対する興味や知識、文化的多様性に対する関心、外国語（英語、及び外国語としての日本語）によるコミュニケーション能力、及び様々な現実的状況における柔軟性・協調性等が評価されます。

よくある質問

Q. 国際入試を受けると国際コースの所属になるのでしょうか?

A. 教育学部の全ての入学者は、第2学年より始まる国際コースのカリキュラムを希望できます。第2学年の前期に、国際コースの希望調査及び履修判定（必要な場合は選考）を行います。国際入試により選抜された入学者も、国際コース以外の通常のカリキュラムの履修ができます。

Q. 国際入試は、日本の高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した生徒でも受験できるのでしょうか?

A. 国際入試の出願資格は、「一般」、「帰国生徒」、「私費外国人留学生」となっています。帰国生徒、私費外国人留学生以外に、日本の高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した生徒も受験資格が与えられます。

Q. 国際入試ではなく、私費外国人留学生入試、帰国生徒選抜を受験することができるでしょうか?

A. 教育学部において平成30年度入学者選抜まで行われていた私費外国人留学生及び帰国子女入試は、平成31年度入学者選抜から行っていません。

Q. 教育学部のリサーチ・トライアルに参加したことがありますが、そのことを調査書に記入してもいいでしょうか?

A. はい。教育学部は、学部の教育内容を知ってもらうために、国内と国外で高大連携活動である、リサーチトライアルを開催しています。調査書には教育学部が主催するリサーチトライアルの成果を記載することができます。

Q. 国際コースに留学は必須なのでしょうか?

A. 留学は必須ではありません。留学を希望する場合は、学内外のさまざまな支援を受けることができます。「海外フィールドワーク」、または「海外インターンシップ」を受講して、海外協定校の学生、教員、研究者らと交流しながら学びます。

国際コースのカリキュラム

教育学部国際コースカリキュラムマップ

4年後期
4年前期
3年後期
3年前期
2年後期
2年前期

人間行動コース（国際）
心理臨床コース（国際）
配属*3

国際教育文化コース（国際）
教育社会計画コース（国際）
配属

系配属

国際コース配属

配属希望

必修科目12単位

卒業論文 *1
卒業論文演習

卒業論文指導演習

*1 教育学系は、E/J、教育心理学系はEで卒業論文を執筆、口述試験は、日本語と外国語の併用

外書講読(E/J)

選択必修科目6単位

Citizenship Education in Contemporary Asia I,II、Education and Politics I,II、アジアの教育、Democracy and Education I,II、Education and Modern State Formation in Asia and Europe(Lecture) I,II,III、International Perspectives on Japanese Education(reading class) I, II、Images of Japan across Contemporary East Asia、Overseas Fieldwork I,II*2、Overseas Internship I,II*2、Overseas Coursework I,II*2、心理学研究法*3、心理学実験*3

*2 これらの科目から教育学系（国際）2科目以上、教育心理学系（国際）1科目以上履修
*3 教育心理学系の研究室を選択する場合は、履修することが必要

選択科目40単位 *4

国際コース推奨科目(E/J)と教育学部で開講されているJ科目の中から履修

*4 教育学系は、教育心理学系の科目を8単位含むこととする。教育心理学系は、教育学系の科目を8単位含むこととする。

選択必修科目の卒業要件6単位より多く修得した場合は、選択科目の単位に含めることができる。

自由科目18単位

社会連携活動(海外)I、II *5

*5 海外でのボランティア活動などの自主的な海外渡航について単位認定

選択必修科目、選択科目の卒業要件単位を超えて履修した場合は自由科目の単位とすることができる。
他学部の専攻教育科目（国際コースE科目を含む）などを履修した場合、自由科目の単位とすることができる。

国際コース配属選考スケジュール

1年1月初旬：学部1年生へ案内:国際コース配属条件（TOEFL等点数確認・渡航費負担・外書講読）
2年4月初旬：希望者は願書(希望理由と将来志望などの小論文)を学務課に提出
4月中旬：単位数確認　願書確認(教務委)
4月中旬から5月下旬：選抜・面接
6月教授会：国際コース学生（新2年生）決定（履修条件を満たせば変更可能、国際枠の海外優先）

1年後期
1年前期

基幹教育科目48単位（卒業要件）
基幹教育セミナー（必修）、課題協学科目（必修）
教育基礎学入門（必修）、現代教育学入門（必修）、心理学入門（必修）、
文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、言語文化基礎科目、健康・スポーツ科目等

人社系「副専攻プログラム」
さらに広く深い学びのために

不透明な現代社会において、人文学・社会科学が果たすべき役割はますます大きくなっています。九州大学の人社系（文学部・教育学部・法学部・経済学部・工学部建築学科）では、それぞれの学問分野に蓄積された知的資産を相互に開放し、体系的に学ぶ「人社系副専攻プログラム」を履修できます。教育学部の学生は教育学と心理学の専門性に加え、この副専攻プログラムにより自学部の枠を超えた人文・社会科学分野の知的広がりを獲得できます。プログラムは学部の枠を超えた「横断型」と各学部の専門を他学部生に開放する「専門領域型」から選択することができ履修は専門教育が始まる2年次からスタートします。プログラムを修了した学生には、卒業時に、教育学部の学位に加え、人社系副専攻プログラム修了証が授与されます。

人社系副専攻プログラムとは？

九州大学人社系副専攻プログラムは、人文・社会科学分野における複数の学問的ツールと広範な知見とを兼ね備えた、視野の広い人材を育成するために2018年4月に創設されました。

プログラムは、「横断型」と「専門領域型」に分かれ、各学部の専門教育が始まる2年次からスタートします。同プログラムにより、九州大学の人社系学部の学生は、自学部で学ぶ深い専門性に加え、学部の枠を超えた人文・社会科学分野の知的広がりを獲得することができます。

1 横断型プログラム

「歴史」「アジア」「情報」「ビジネス」といった現代社会を解く重要なテーマに関心を持つ知的好奇心旺盛な学生に対して、自学部に籍を置いたまま2年次より上述のテーマに関して文系4学部が提供する科目を広く体系的に学ぶ機会を提供します。

副専攻プログラム名	プログラムの概要
現代のための歴史	現代の日本社会・国際社会を理解し、そのなかで活躍するために、それぞれの地域・社会や産業分野・学問分野を過去から現在にいたる蓄積によって形成されるものとして歴史的に理解する力を、そうした視点を獲得するための方法論も含めて身につけます。
クロス・アジアの人間と社会	アジアという時空間や概念を軸とする「クロス・アジアの視座」から人間や社会を理解するために、隣国を含むアジア諸国との関係、さらにそのグローバルな文脈における位置や今後の在り方、そのなかでの人々の生き方への深い洞察力を身につけます。
超情報化社会の文系知	情報通信ネットワーク技術が日進月歩の勢いで高度化する現代社会において、それらの技術革新が様々な産業分野に及ぼす影響や、そこにおける規制のあり方を含めて、近い将来における社会のあるべき姿を今から考え、適切な社会制度を設計できるような能力を身につけます。
グローバル時代のビジネス	グローバル化が進む現代社会では、各国・地域のローカルで多様な文化や政治・経済・社会の内在的理解は欠かせません。地球上のどの地に身を置くことになっても、地域理解とビジネスに関する実践知をもって互恵的関係を構築できる「真のグローバル・ビジネス人材」としての力を身につけます。
建築から学ぶ地域文化遺産	地域文化遺産を通じて「建築」とは何か、また歴史的建造物を保存・活用していく手段を学び、国内外を問わず社会で活躍するための基盤的素養を歴史的建造物を通じて身につけます。

2 専門領域型プログラム

本プログラムは文系他部局の専門領域をより深く学びたいと考える学生に対して、自学部に席を置いたまま2年次より他部局の専門領域を体系的に学ぶ機会を提供します。

提供学部	副専攻プログラム名
文学部	▸哲学プログラム　▸歴史学プログラム　▸文学プログラム　▸人間科学プログラム
教育学部	▸教育学・心理学から見た『個と多様性』　▸教育学・心理学から見た『文化とシステム』
法学部	▸法の文化と歴史　▸行政と法　▸企業と法　▸犯罪と法　▸国際ビジネスと法　▸政治
経済学部	▸経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題
工学部建築学科	▸教養としての都市・建築学

副専攻プログラムWEB
http://commons.kyushu-u.ac.jp/sub-major/

副専攻プログラム担当からのメッセージ

大学時代のうちに教育学を専攻しながら、文学、法学、経済学を横断的あるいは専門的に学び、多角的な視野を獲得できる貴重な機会です。

陳 思聡准教授

■ 卒業論文の執筆と最終試験

4年の前期と後期においては、卒業の要件である卒業論文を作成します。卒業論文は、4年間にわたる教育学部での勉学の集大成を意味します。作成にあたっては、みなさんが独自の発想や問題意識を大切にし、受け身の姿勢に陥ることなく、積極的かつ主体的に取り組むことを期待します。教育学系では、20分の口述試験、教育心理学系では、ポスター発表を行っています。

■ 就職・進学

就職及び進学

教育学部の卒業生は、大学院へ進んで研究者の道を歩むもの、官公庁（地方公務員も含む）で行政に携わるもの、家庭裁判所調査官として専門的な実践携わるもの、また一般企業では金融・保険業やサービス業、マスコミや広告業、情報処理、製造業など、さまざまな分野に進んで活躍しています。

教育学部の進路先

年　度	2017	2018	2019	2020	2021
進　学	13	14	16	13	7
就　職	37	35	31	30	26
その他	2	4	3	5	6
計	52	53	50	48	49

主な就職先

企　業：西日本電信電話、熊本県民テレビ、楽天銀行、日本生命保険相互会社、西日本シティ銀行、サイバーエージェント、ビズリーチ、福岡市社会福祉事業団

公務員：福岡市、熊本県、大分県、福岡県、広島県、厚生労働省

大学院

人間環境学府

https://www.hues.kyushu-u.ac.jp/

国際化や情報化の進展とともに、人間と環境をめぐる問題は大きな変化を示し、環境問題は地球規模でますます深刻化していく方向にあります。

いま私たち人間にとって大切なことは、人間と環境を従来のように分離して捉えるのではなく「人間環境」という形で一体的に捉え、環境とのよりよい共生の在り方を探ることです。

人間環境学府は、こうした社会背景や理念を踏まえて、人間にとって最適な環境のあり方とその創造の方向を探るために新しく生まれてきた学際的な学問領域を、人間学的な視点、教育学的な視点、心理臨床学的な視点、社会文化的な視点、健康科学的な視点、工学的な視点から総合的に研究、教育するための大学院です。人間環境学府は次の専攻（コース）からなりたっています。

授業科目は、都市政策に関するものから人間の内面世界に関わるものまで幅広い科目があり、学生諸君には、専門分野はもちろんのこと、工学的なテクノロジーから文系的なソフト・サイエンスに至る幅広い知見を学修することが期待されています。

A.都市共生デザイン専攻
- アーバンデザイン学コース（修士）
- 都市災害管理学コース（修士）
- 持続都市建築システム国際コース（修士・博士後期）
- 都市共生デザインコース（博士後期）

B.人間共生システム専攻
- 臨床心理学指導・研究コース（修士・博士後期）
- 共生社会学コース（修士・博士後期）

C.行動システム専攻
- 心理学コース（修士・博士後期）
- 健康・スポーツ科学（修士・博士後期）

D.教育システム専攻
- 現代教育実践システムコース（修士）
- 総合人間形成システムコース（修士）
- 教育学コース（博士後期）

E.空間システム専攻
- 建築計画学コース（修士）
- 建築環境学コース（修士）
- 建築構造学コース（修士）
- 持続都市建築システム国際コース（修士・博士後期）
- 空間システムコース（博士後期）

F.実践臨床心理学専攻（専門職）

共に学び、
知を高めあう

教育学部の教員紹介

Introduction of Academic Staff

教育学系

教授
藤田　雄飛
FUJITA Yuhi
教育哲学第二

国際教育文化コース

教育哲学は、教育に関わる日常的な実践から思想史的な概念までの多岐にわたる対象を哲学的に探求し、教育そのものを支える諸構造を明らかにすることを目指しています。こうした作業は日頃「当たり前」としてきたものの前で立ち止まり、それらに問いを投げかけるところから始まるものです。このような「当たり前」の不思議さに気づけるようなしなやかな感性と何処へでも向かいうる好奇心、そしてほんのチョットの冷めたまなざしを持って「哲学する」という経験を皆さんにもしてもらえたらと思います。

研究キーワード
▶身体　▶環境　▶意味

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K004568/index.html

教授
Edward Vickers
比較・国際教育第一

国際教育文化コース

政治的社会化及び近代国家形成における教育の役割は比較教育の分野に携わる者にとって重要な関心領域です。これが私の主な研究であり、特に東アジアを対象としています。1992年から2003年まで中国（香港と北京）で高校の教師や教科書執筆をした経験がきっかけとなっています。中国が国内及び東アジア諸国との安定を図るためにナショナリズムを用いるという危険性があることから、中国、台湾、香港や近隣諸国における国家のidentityに関する公式見解がどのように学校教育やその他の機関（博物館等）に反映されているかも探求したいと考えています。授業では、東アジア及び国際的な視点から、教育、identity形成そしてナショナリズムの関係の認識と理解を深めることを目的とします。

研究キーワード
▶現代中国　▶Identity形成　▶ナショナリズム

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K004574/index.html

教授
竹熊　尚夫
TAKEKUMA Hisao
比較・国際教育第二

国際教育文化コース

比較・国際教育学第二では、主に多民族社会における教育や、国際化・国際交流と教育のあるべき姿やそれらの関係性と課題、展望について研究しています。私自身はマレーシアをはじめとした様々な国家、社会への民族教育の現地調査を行ってきており、最近では日本の高専の輸出や、学習文化や教育文化における日本と海外との比較研究を行っています。しかし、指導している学生はフィールドとする地域は世界中に広がり、対象とする教育段階、そして研究課題は実に多種多様です。ゼミでは比較教育学のアプローチや地域比較研究方法の勉強をするほか、夏の合宿等で様々な文化背景を持った学生同士の協働作業や論文発表会を行っています。

研究キーワード
▶多民族社会の教育　▶教育借用　▶教育学習文化

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K000590/index.html

准教授
花井　渉
HANAI Wataru
比較・国際教育学第三

国際教育文化コース

海外留学や国際交流の世界的な拡大・発展に伴い、多様な学修背景、学習経験や教育資格をどのように認証・評価し、個々の学力やスキル等を確認するのかが、受け入れ国の大学入学者選抜の課題となっています。私は主にイギリスにおける高大接続や国際的な教育資格（国際バカロレア等）の認証・評価をめぐる制度・政策に関する研究を行っており、最近では国内外における入試の公平性・公正性、高校における探究学習の実践と評価に関する国際比較研究を行っています。ゼミでは各自の関心を基に、比較教育学の方法論、グローバル時代の教育課題への比較教育学的アプローチや国際高大接続に関する勉強をするほか、国際会議への参加、他大学との研究交流や夏合宿等での論文検討会を行います。

研究キーワード
▶イギリス　▶国際高大接続　▶資格認証評価

https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K008194/index.html

教授
田上　哲
TANOUE Satoru
教育方法学

国際教育文化コース

教育方法学は教育現場における様々な課題にアプローチする学問です。「どのように教育するか」という問いと同時に、「それは教育か（教育とは何か）」という互いにアンチテーゼとなる問いを内包した学問です。言い換えれば、教育における実践と理論の関係を追究するものです。例えば、授業研究では実際に授業を参与観察（・記録）して、子どもの知識形成の問題や教師の指導のあり方等を検討していきます。教師と子どもが相互に影響し合い、共に人間形成／自己形成を遂げていく教育の場所から、教育実践のあり方と教育の理論や本質をとらえ直していくところがこの学問の面白さです。ゼミでは各自の関心を基に、文献やフィールドの調査方法、データの分析方法等、研究方法論を中心に検討します。

研究キーワード
▶ 授業研究（Lesson Study）　▶ 理論と実践の関係　▶ 事例研究（Case Study）

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K003115/index.html

准教授
久米　弘
KUME Hiroshi
教育情報システム

国際教育文化コース

教室における教授活動をより効率的に、そして、授業内容を一人一人の学習者がより高いレベルの法則として理解できるように、実際の授業を創造し、検証して行く事を目的としています。教える・教えられる関係、情報を伝達する状況、は、教室に限らず、あらゆるところに存在しています。このように抽象化する事で、教室の中で起きている情報伝達の仕組みを解明して行く事は、あらゆる学問の基礎にもなるはずです。

指導の仕方など、詳しくは、次のWebサイトをご参照ください。
https://shaga.edu.kyushu-u.ac.jp/Eis_Eit/

研究キーワード
▶ 誤認識　▶ 教授戦略　▶ 教材開発

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K002250/index.html

准教授
陳　思聡
Sicong Chen
異文化間教育論

国際教育文化コース

グローバル化により世界各地は文化、社会、政治などあらゆる側面において緊密に連動しています。このような現状から、個人・集団と国家・社会との関係性についてのより深い議論が求められています。私は「シティズンシップ」（市民性）という政治的概念の考察と再構築を通して、より民主的かつ公正的な社会の実現に貢献できるシティズン（市民）の育成について研究しています。特に東アジア社会における学校教育のみならず広義的なシティズンシップ教育の政策と実践に注目しています。ゼミの指導方針は、学生が理論的知識をもとに現実課題に対して批判的な考察を行い、提案できるようにすることです。

研究キーワード
▶ シティズンシップ教育　▶ 教育と政治　▶ 東アジア

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K006887/index.html

准教授
木下　寛子
KINOSHITA Hiroko
教育環境学

国際教育文化コース

人が学び育ち、生きているところには、自覚の有無にかかわらずいつもその人がいる場所、環境があります。教育環境学は、環境の中で人が生きることに広く視野を広げつつ、人が学び育つこと、生きることと環境の切り離しえない関係性を探求する領域です。環境との関わり合いは、時に制約となり、可能性となり、支えとなり、希望となりますが、環境自体は自ら何かを語ってくれることはありません。人の振る舞いや言葉に注意深くなりながら、自分の身を以て確かめることで、言葉にならない場所の言葉に耳を傾け、聞き取ることが一番大事な仕事になります。公園、町、園や学校、台所や図書館など、私達が居るどんな場所からでも探求の旅は始まります。

研究キーワード
▶ 学校と教室　▶ 雰囲気・風土　▶ フィールドワーク

https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K007658/index.html

教育学系

教授
江口　潔
EGUCHI Kiyoshi
教育社会史第一
教育社会計画コース

教育社会史第一では、学びや教育に関わる事柄を歴史的視点から研究しています。その目的は、自明な事柄を根底から捉え直すことによって、学びや教育の新しい可能性を探ることにあります。近年は学校教育に求められる職業的能力の曖昧さに関心を持って研究に取り組んでいます。ゼミでは、担当者に教育学の先行研究に関する報告を行ってもらい、出席者から、それに対する意見を発表してもらっています。そこでは、他者の意見を受けとめた上で、自身の見解に至った理由について深く考えてもらうことを課題としています。

研究キーワード
▶職業教育　▶普通教育　▶教育課程

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K007017/index.html

教授
野々村 淑子
NONOMURA Toshiko
教育社会史第二
教育社会計画コース

家族や子ども、男女の生き方などを語るとき、私たちは無意識にこうあって欲しいという理想や、そもそもこういうものだからという思いを重ねがちです。近年の歴史研究は、こうした領域にも対象を拡げ、近現代社会の自明性に問いかけてきました。私の研究室では、子どもや家族、ジェンダーに関わるテーマについて、今ある形や理想像など、自らの認識枠組それ自体の形成過程を丹念に追うことで、教育を語る「前提」を研究します。私自身は、イギリスの貧困児保護事業（孤児院や無料診療所など）の歴史を通してそれを追究中です。ゼミでは、各々の関心、課題探究のプロセスを重視し、その視座や分析力を磨くために、皆で研究文献批評、発表や議論、最新の知見の共有に励んでいます。

研究キーワード
▶子どもと家族の歴史　▶ジェンダー史　▶教育福祉の歴史

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K000592/index.html

教授
元兼　正浩
MOTOKANE Masahiro
教育法制
教育社会計画コース

公教育は教室の教育活動等を支える複雑なシステムで成立しています。教育法制研究室は、法学との学際領域となる教育法学研究をはじめ、教育行政（文部科学省や教育委員会等）が推進する教育政策や行財政の執行状況を批判的に検討する教育行政学研究、学校体系・接続や教職員、教科書、条件整備などの教育制度研究、さらには学校組織マネジメントの状況、家庭や地域社会との連携のあり方を検討することにより、未来を担う子どもたちの学習権保障のための教育のあるべき姿について研究します。

研究室では理論と現場実践を架橋させ、大学研究者、教育行政等に携わる国家・地方公務員、小中高等学校教員、株式会社代表など多様な人材を輩出しています。

研究キーワード
▶教育行政　▶教育政策　▶教育制度

https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K000588/index.html

教授
木村　拓也
KIMURA Takuya
教育社会学
教育社会計画コース

教育社会学研究室では、教育に関する世間で考えられている常識を問い直す手立てとして、パラドクスという思考様式と、それを裏付ける計量分析の研究手法を用いて、実証していくことを目指しています。複雑な教育社会のメカニズム理解をするためには、目の前に見えていることだけを唯一の情報源しないことが必要となります。社会の裏側の仕組みまで解明し、しっかりとした知見に基づいた教育計画の立案が求められており、その方法と体系を探求していきます。

研究室では、社会調査士の資格のための計量手法に関する講義・演習を中心に、プロ仕様のアンケートや計量分析が実施できる力の育成を行います。また、国内外の興味深い高大接続や高大連携を実践している高等学校に調査に出かけ、キャリア教育や進路指導に関する知見も深めていきます。

研究キーワード
▶教育計画論　▶高大接続　▶テスト理論

https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K004826/index.html

教授
岡　幸江
OKA Sachie
社会教育計画論

教育社会計画コース

社会教育学を専門とする私の研究室では、学校教育にとどまらない教育の世界の広がりや豊かさを、特に日常の生活世界の中に教え一学ぶ世界を可視化していくアプローチから探究しています。また市民の生活感覚に見合う形で、学習権保障の重要な拠点である社会教育の施設や職員のあり方を再構築する方途にも重大な関心をよせています。ゼミ活動では、フィールドに出かけ五感で個性的に生きた学びの世界をとらえ思考すること、それを一人のものにとどめず社会教育の学習方法の根幹である「共同学習」の実践において深めていくことを大事にしています。一人一人が大学の学びに希望と納得を得てほしいと願っています。

研究キーワード
▶ Informal Education　▶ 応答性　▶ 生活世界

https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K003536/index.html

講師
田北　雅裕
TAKITA Masahiro
教育デザイン論

教育社会計画コース

地域づくりを「社会的に孤立している人や事象を、地域社会という中間領域にひらき、支えること。また、居合わせた人たちと共に、日々の暮らしの課題を乗りこえ、次の世代に希望をつないでいく実践」と定義し、実践・研究・教育に取り組んできました。「教育デザイン論」とは、人間形成や行動変容の相応しいあり方や場について、長らく追究してきた教育学的観点を踏まえながら、地域社会に相応しいコミュニケーション・デザインのあり方を追究していく営みです。近年は、子ども家庭福祉や生活困窮者支援の現場において、多様な関係者と協働しながら課題を乗りこえていくコミュニケーション・デザインの実践と研究を、学生たちと共に取り組んでいます。

研究キーワード
▶ コミュニケーション・デザイン　▶ コミュニティ・ケア　▶ 地域づくり

https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K003446/index.html

准教授
鈴木　篤
SUZUKI Atsushi
教育動態論

教育社会計画コース

普段、私たちは知らず知らずのうちに様々な人と関わり、影響を受けたり、逆に影響を与えたりしていますが、私たちの人格形成や行動選択には（生まれてから現在までの）様々な人・モノとの関わりが大きな影響を及ぼしてます。教育も社会の機能システムのひとつであり、経済や政治、科学などの様々なシステムと影響を与えあっていますが、人間や個人もまたシステムのひとつとして捉えると、学習や人間形成という現象も様々なシステム間の相互作用として考えることが可能となります。これまでとは異なる視点から、学校や学級という制度、各教科や道徳・特別活動・生徒指導等の教育活動、教育学という学問などを手がかりに、システム間の相互作用として教育を捉え直してみましょう。

研究キーワード
▶ 教育と社会の関係　▶ 相互作用としての教育実践・学習　▶ 教育学の発展史

https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K007903/index.html

准教授
清水　良彦
SHIMIZU Yoshihiko
教師教育学

教育社会計画コース

教師教育学は教員養成・採用・研修など教師のライフコースを包括して研究対象とする学問分野です。教育学における多様な専門研究分野をもった研究者が「教師（教育者）を育てる」という視点から継続的・総合的に研究を蓄積しています。私はこれまで、「教師の力量形成」を目的として、授業の事実を多面的に捉えるために、教師（授業者、現場教師）や大学研究者だけではなく、さまざまな参加主体（例えば、子どもや保護者）が授業実践を検討する新たな授業分析方法の開発に取り組んできました。また、教職志望学生の実践的指導力の向上を目的として、地域における放課後学習支援事業・居場所づくり事業、おもちゃ図書館の運営などの教師教育の実践的な取り組みも進めています。

研究キーワード
▶ 教師教育　▶ 教員養成　▶ 授業分析

教育学系

助教
塚野　慧星
TSUKANO Keisei
教育思想史
教育社会計画コース

私たちが慣れ親しんでいる現在の教育は、「教育はどうあるべきか」を問うてきた人々の影響によって形づくられています。そのため、現在の教育のあり方を考えるためには、今日へと至るそうした思想の蓄積を振り返り、「過去」の延長線上にある時代としての「現在」を捉えることが重要です。私は、このような立場から、「人間は教育によってはじめて人間になることができる」という言葉を残し、教育学の理論構築に大きく貢献した哲学者であるイマヌエル・カントの思想研究を通して、「人間」の形成を目指した教育のあり方について検討を行っています。

研究キーワード
▶イマヌエル・カント　▶近代教育学　▶道徳教育

https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K008256/index.html

教育心理学系

准教授
伊藤　崇達
ITO Takamichi
教育心理学第二
人間行動コース

人が学ぶということにおいて、主体的かつ意欲的であるとはどういうことか、教授・学習心理学の立場から研究しています。学習過程の問題の中でも、とりわけ、学び方をどのように学んでいくかというメタ学習の視点を重視しています。

ゼミでは、主に調査や実験など、心理学的アプローチを駆使し、グループ・ディスカッションを通じて、それぞれが関心のあるテーマを深めていきます。人は、教師や養育者、仲間といった多様な他者との関わりあいをもとに、生涯にわたって学びを深め広げていきます。まさに、皆さんとの「学びあい」を通して、「主体的学び」の本質に迫っていくことができればと考えています。

研究キーワード
▶主体的学び　▶学びあい　▶モティベーション

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K007111/index.html

教授
橋彌　和秀
HASHIYA Kazuhide
発達心理学第一
人間行動コース

乳幼児のさまざまなコミュニケーション行動やその基盤について、行動実験の手法を用いながらアプローチしています。*Homo sapiens*という生物として個体が（おそらくは出生当初から）備えている基盤が、社会・文化的な相互作用を通して、協力や利他行動、規範、制度、一方では偏見や差別といったものを成り立たせ生み出していく過程を「発達」という視点から検討することを通して、こころと呼ばれる内的なシステムのなりたちを見直し、その進化的起源についても新たな視点を提示しすることで「ヒトとは何か」、腰を据えて考えたい。日頃の生活の中に隠されている不思議や謎を掘り起こし、丹念に眺めながら、敬意をもって探究することの面白さを共有したいと思っています。

研究キーワード
▶発達　▶進化　▶コミュニケーション

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K000460/index.html

准教授
實藤 和佳子
SANEFUJI Wakako
発達心理学第二
人間行動コース

ヒトは他者の“こころ”をいつ頃からどのように理解していくのでしょうか。私の研究室では、主に乳幼児を対象として、自分自身や他者をどのように知覚・理解しているのか、自己理解と他者理解はどう関連するのか、他者理解の発達に自分の経験や他者との相互作用はいかに影響を及ぼすのか等を研究しています。さらに、発達に難しさを抱える子ども達の早期発見や発達支援も視野に入れた研究・実践活動をしています。お子さんへの課題実施や行動観察等を通して、乳幼児が周りをどのようにみており、いかなる発達過程を経て今の私たちが形づくられていくのか、皆さんと一緒に解明していきたいと考えています。

研究キーワード
▶他者理解　▶コミュニケーション　▶発達

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K004900/index.html

准教授
池田　浩
IKEDA Hiroshi

社会心理学第一

人間行動コース

人間は社会的動物と言われるように、沢山の人間が集まる集団や組織（企業や学校など）に所属しながら、様々な活動を営んでいます。その集団や組織のマネジメントやそこに所属している人々のやる気次第で、そこでの雰囲気や一体感だけでなく、パフォーマンスなども大きく左右されます。社会心理学第一研究室では、社会心理学の中でも特に集団や組織に注目します。そして、どうすれば人々のモチベーション（やる気）を引き出すことができるのか、あるいはどのようなリーダーシップが効果的かについて、調査や集団実験、あるいは現場観察を通して学生の皆さんと一緒に取り組んでいきます。

研究キーワード
▶リーダーシップ　▶組織　▶モチベーション

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K006335/index.html

教授
山口　裕幸
YAMAGUCHI Hiroyuki

社会心理学第二

人間行動コース

社会心理学研究室では、集団で活動する過程で生まれてくる雰囲気や集団規範、チームワークや集団効力感といった、集団レベルの心理学的特性の創発・維持プロセスの解明や変革・育成の方略について、グループ・ダイナミックスや組織心理学の観点から研究を行っています。ひと言で言えば、皆で一緒に何かをやろうというときに、力を合わせ、支えあいながら、目標を達成するためにはどうしたらよいのかを考える研究です。いきいきとした集団を作るために、どのようなリーダーシップが効果を発揮し、すぐれたチームワーク形成につながるのかを考え、集団を元気にする方法を探ります。

研究キーワード
▶グループ・ダイナミックス　▶組織心理学　▶チームワーク

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K000530/index.html

准教授
杉山　高志
SUGIYAMA Takashi

人間環境心理学

人間行動コース

自然災害などによって私たちの身の回りの環境が変化すると、私たちの心や行動にどのような影響を与えるでしょうか。私は、個に閉じない視点で人間を探究し、人間と環境との関係を問い直しながら、現場に根ざした実践と理論の双方に基づく研究を行ってきました。

近年は、巨大な津波想定に立ち向かうための地域防災や超高齢社会における地域福祉の課題解決などをテーマに、現場の当事者と研究者が協働で問題解決を目指すアクションリサーチの手法を用いた研究を展開しています。

研究キーワード
▶コミュニティ心理学　▶アクションリサーチ　▶防災

准教授
金子　周平
KANEKO Shuhei

カウンセリング第一

心理臨床コース

カウンセリング第一では、個人心理療法やグループ・アプローチについての効果研究やプロセス研究、事例研究を行なっています。特に1960年代に生まれたヒューマニスティック・アプローチの考え方をベースとした研究と実践に取り組んでいます。学生の皆さんは心理療法・カウンセリング・臨床心理学に関する幅広い理論や事象の中からテーマを選び、研究を進めています。研究の基本は、現実的かつ倫理的に進めること、そしてそのテーマにエネルギーを傾けることですが、これらをクリアすることは意外と難しいものです。皆さんには、自身の研究を実現できるように、まずは様々な研究に触れ、研究方法を学ぶことを目指して欲しいと思います。

研究キーワード
▶ヒューマニスティック　▶グループ　▶非行や犯罪

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K006381/index.html

教育心理学系

教授
黒木　俊秀
KUROKI Toshihide
カウンセリング第二
心理臨床コース

19世紀末にジークムント・フロイトが創始した精神分析学は、20世紀の精神医学や心理学のみならず、芸術や文芸の領域まで大きな影響を与えました。本研究室は、代々、前田重治、北山　修というわが国を代表する精神分析家が主宰してきた伝統があるため、現在も精神分析学に関心のある人たちが集まる傾向にあり、研究会でも精神分析的心理療法に関するテキストを輪読しています。一方で、パーソナリティ障害の計量心理学や認知行動療法の効果研究など、現代の医学・医療を補完する臨床心理学の研究にも門戸を開いております。海外における心理療法の動向にも常に関心を払っています。

研究キーワード
▶ 精神分析　▶ 科学的エビデンス　▶ グローバル・スタンダード

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K001947/index.html

准教授
佐々木 玲仁
SASAKI Reiji
カウンセリング第三
心理臨床コース

カウンセリング第三研究室では、心理療法を支える心理アセスメントと、心理療法の中で用いられる芸術療法を中心に研究を行っています。人の心のありようを数値や言葉などの目に見える形で表現する心理アセスメントも、心のうちにある言葉にしにくいものを描画や箱庭などの形で表わす芸術療法も、どちらも心理療法の重要な技（わざ）です。しかし、技（わざ）について記述したり研究したりするのは容易なことではありません。そこで本研究室では、その技を研究するための研究法そのものも、研究の対象にしています。学生は自身の関心に従って、ありものの研究法を使うだけではなく、研究法自体も一つ一つ作りながら研究を行っていくことになります。

研究キーワード
▶ 心理アセスメント　▶ 芸術療法　▶ 臨床心理学研究法

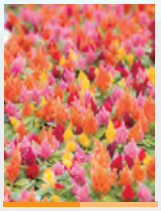
http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K003559/index.html

准教授
小澤　永治
OZAWA Eiji
発達臨床学第一
心理臨床コース

子どもが育つ過程の中では、様々な困難に突き当たることもがあります。そこには、子どもが生まれ持つ特徴に由来するものもあれば、家庭の中での育ちに由来するもの、仲間や大人との関わりに由来するものもあり、多様な観点から理解することが必要です。現在は特に、児童虐待を始めとした不適切な養育環境を経験持つ子どもたちや、社会的養護と呼ばれる家庭以外の場で育つ子どもたちに対する、臨床心理学的理解と支援について実践・研究を行っています。みなさんといっしょに、子どもたちののびのびとした成長を促すための関わりについて研究・実践を重ねてゆきたいと思います。

研究キーワード
▶ 社会的養護　▶ 児童虐待　▶ 発達臨床

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K004590/index.html



教授
田中　真理
TANAKA Mari
発達臨床学第二
心理臨床コース

多様なひとびとにひらかれたユニバーサルデザイン化に求められていることは何でしょうか？多様性のなかでも特に障害の有無に関わらず、そのひとの能力や個性が発揮できる教育環境を構築するためのアクセシビリティについて考えています。社会的なバリア・情報を得るためのバリア・心理的なバリアがなく、誰もが参加しやすい教育環境をあらかじめ整えるためのユニバーサルデザインのあり方について、研究や実践活動をしています。

研究キーワード
▶ 発達障害　▶ アクセシビリティ

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K005354/index.html

講師
野村 れいか
NOMURA Reika
発達相談学第一
心理臨床コース

子どもの育ちを支えることは養育者や子どもを取り巻く環境（学校・施設・社会資源）と繋がることが不可欠です。私はこれまで多職種・他機関と連携しながら、保健福祉センターや精神科病院で親子の育ちを見守り、サポートすることに携わってきました。発達のプロセスを踏まえ、個人と環境の関わりや環境調整について臨床および研究を進めています。また、災害支援や性暴力被害者への支援等、緊急支援にも関わっています。これまで関わってきた方々から「人間ってすごい」ということを教えてもらいました。皆さんとそれを共有しながら、ともに学んでいきたいと思います。

研究キーワード
▶ 発達臨床　▶ 地域支援　▶ 緊急支援

https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K007897/index.html

教授
遠矢　浩一
TOYA Koichi
発達相談学第二
心理臨床コース

発達相談学第二では、人とのコミュニケーション、友人関係、ことば、運動など様々な心身の発達に難しさを抱える子どもたち、そしてその家族の支援について臨床心理学的に研究しています。特に、こどもたちのためのグループセラピーや、障がいをもつ子どものきょうだい児、および、保護者のための支援活動を日々、実践しています。臨床動作法という私どもの研究室を中心に開発してきた技法による支援活動もまた一つの特徴です。学部生の段階から、大学院生と活動をともにしながら、体験的知識と技術を得られる場を提供しています。子どもたちの成長に携わることができるという点が魅力です。

研究キーワード
▶ 発達障害支援　▶ きょうだい支援　▶ グループセラピー　▶ 運動障害リハビリテーション

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K000287/index.html

准教授
古賀　聡
KOGA Satoshi
生涯発達学
心理臨床コース

幼児期から青年期、高齢期まで各年代で生じる心の危機の理解と支援について考えます。発達障害や運動障害のある子どもと家族に対する支援（発達臨床）とアルコールや薬物などのアディクション問題を含む精神疾患のある成人に対する支援（心理臨床）の両方を学んで欲しいと考えています。幅広い世代、多様なニーズをもつ対象者への支援を考えるために、身体動作や行為表現に着目した心理療法「臨床動作法」、「心理劇」の研究を行っています。カウンセリングも含めたこれらの心理療法について体験的に学ぶことができます。研究室には臨床心理士、公認心理師の資格をもつ大学院生の先輩が在籍して、みなさんのアクティブな学びを優しく、熱くサポートしてくれます。

研究キーワード
▶ アートセラピー　▶ グループセラピー　▶ ボディワーク

http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K004622/index.html

RESEARCH TRIAL

教育学部の高大接続

高校生のためのリサーチトライアル in 九大教育学部

教育学や教育心理学を研究するってどういう意味だろう?教員養成学部の教育学と研究者・教育専門家養成の教育学・教育心理学ってどういう学問だろう?と高校生の皆さんは進路を考える際に迷うことと思います。その進路の迷いを少しでも解決してもらうために、九州大学教育学部では、オープンキャンパスの翌日に、1日かけて、教育学と教育心理学の講義と演習を行い、実際に、研究を体験してもらう機会を設けています。リサーチトライアルの目的は、単なる大学への進路指導活動やキャリア教育ではなく、研究志向を持つ高校生に対して、教育学部教員(含:名誉教授)が教育学と教育心理学の各専門領域に関する高度な教育を行うとともに、研究会やゼミへの参加を奨励することで、大学入学前の早い段階から研究への意欲を高め、研究者となる動機付けを行うことを目指すことにあります。教育学や教育心理学に興味を持ち、知の最先端の研究に触れることを希望する者、将来的に研究者になりたいという強い希望を持つ者、すぐに結果がでなくても粘り強く思考する者、など、「研究志向」を持つ生徒の参加を待っています。なお、参加には、事前申し込みが必要ですので、教育学部HPから申し込みください。

現在では、海外にも高大接続を広げ、中国(上海・深セン)、タイ(ナコンシータマラート)などの海外の生徒に向けても、リサーチトライアルを実施しています。

リサーチトライアルHP
https://www.education.kyushu-u.ac.jp/_eep/

INTERNATIONALIZATION

教育学部の国際化

九州大学教育学部では、2019年に国際コースを設置し、学部教育の国際化を進めています。

英語による講義演習科目の開講

教育学部には、Edward Vickers教授、陳准教授の2人を中心として英語による講義演習科目が開講されています。Edward Vickers教授が行っている、Education and Modern State Formation in Asia and Europeでは、ヨーロッパ・アジア・北アメリカにおける大衆教育システム成立の歴史について。現代社会の教育の目的についてクリティカルに考えることをめざします。陳准教授が行っている、Citizenship Education in Contemporary Asiaでは、シティズンシップという概念やシティズンシップ教育という教育領域について、また現代アジアにおけるシティズンシップ教育の特徴、課題、理想像について議論します。

Edward Vickers 教授

陳　思聡 准教授

海外フィールドワーク、海外インターンシップの紹介

近年、海外では、「日本式教育」の需要が高まり、日本の教育の「クオリティ」に世界が注目しています。そこで展開されている教育が如何なる意味で、「日本式教育」なのか、先方の教育文化の中で、何が「日本式教育」に求められていて、どのように「日本式教育」が現地化しているのか、その現象を探索する学問的視点は様々です。

九州大学教育学部では、なかなか学生個人では行くことが難しい、海外の各種教育機関と協定を結び、日本の学校現場だけでなく、海外の教育現場を体験する機会を提供しています。

現在、教育学部では、海外フィールドワークとして、東南アジア（タイ・ベトナム）、東アジア（中国・台湾）の海外フィールドワーク（7泊8日）を実施しています。この短期留学では、現地、学校への訪問、日本語の授業補助、生徒との交流、現地大学での教育学講義の受講など、様々な経験を行います。9月にモンゴルのモンゴル日本人材開発センター（JICAと国際交流基金の関係事務所）でのインターンシップとして、2週間、現地企業との交渉や日本語教育の補助を行います。

こうした短期留学の経験を経て、1年や半年の長期留学につなげることが期待されています。

海外フィールドワークのスケジュール例

中国

1日目　移動日（福岡→上海）
2日目　上海文来高校で模擬講義の補助
3日目　上海の特別支援学校を訪問
4日目　華東師範大学で教育学講義を受講、英語で学生交流
5日目　移動日（上海→南京）
6日目　南京師範大学で教育学についての英語で発表
7日目　南京市内の学校見学、科挙博物館の見学
8日目　移動日（南京→福岡）

タイ・ベトナム

1日目　移動日（福岡→バンコク）
2日目　バンコクの大学生と交流
3日目　移動日（バンコク→ナコンシータマラート）
4日目　柳川高校付属タイ中学で日本語授業補助
5日目　移動日（ナコンシータマラート→ハノイ）
6日目　日本国際学校で授業見学
7日目　ハノイ国家大学付属外国語英才学校で授業見学と生徒との交流、ベトナム民族博物館の見学
8日目　移動日（ハノイ→福岡）

台湾

1日目　移動日（福岡→台北）
2日目　台東に移動 博物館、教育施設等の見学
3日目　文化施設見学 原住民文化についての学習
4日目　台北に移動 博物館見学 政治と記憶に関する勉強会
5日目　台湾師範大学での教育学講義、台北にて記念館見学
6日目　引き続き台北にて、教育関連団体訪問、博物館等見学
7日目　国立台湾大学、淡江大学、日台学生会議の学生との交流
8日目　移動日（松山→福岡）

❖ 海外高大接続教育研究拠点

九州大学教育学部は、現在、4つの教育施設と協定を結び、海外高大接続教育研究拠点を設置しています。教育学部が設置しているこれらの拠点において、海外での教育実習、日本語教育の補助、授業見学などが行われます。これらの拠点は、教育学部の授業科目であるOversea Fieldwork、Oversea Internshipの実践の場として協力をいただいています。

信男教育学園
上海文来高級中学
（日本の高等学校に相当）

信男教育学園
深セン第三高級中学
（日本の高等学校に相当）

柳商学園
柳川高等学校付属タイ中学

モンゴル日本人材開発センター

❖ 海外の留学協定校について

九州大学教育学部は、世界に複数の協定校があり、学生は、部局間交流協定に基づいて、留学の申請をすることが可能です。

教育学部独自の協定校の一覧

中　国：華東師範大学、南京師範大学、北京科技大学、香港教育大学
韓　国：公州大学校師範大学
台　湾：国立台湾師範大学、国立暨南国際大学

また、この他に、九州大学全体では、世界各国に協定校があり、学内での選考を経て、世界各国へ留学へ行くことが可能です。教育学部では毎年、留学に出かける学生が多く、また、多くの留学生が教育学部や大学院に留学してきており、外国人訪問研究員の先生がいらっしゃる研究室では、英語でゼミが行われるなど、国際色豊かな研究環境が整っています。九州大学における留学・国際化の状況については、国際部留学課WEBをご覧ください。

大学間交換留学が可能な世界の大学

34カ国・地域　140大学（2023年1月現在）

国際部留学課WEB
https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/

教育学部生の主な留学先

アメリカ	ライス大学	イギリス	シェフィールド大学
	ベレア大学		ニューカッスル大学
	アリゾナ州立大学		ロンドン大学
	サンノゼ州立大学	オーストラリア	シドニー大学
スウェーデン	ウプサラ大学		オーストラリア国立大学
	ストックホルム大学	シンガポール	シンガポール大学
中国	北京大学	ノルウェー	オスロ大学
韓国	公州大学校		
	ソウル大学校		
	高麗大学校		
	釜山大学校		

教育学部独自の留学支援

留学生センターの協力のもと、学生が留学する際には、その手続きから、各種奨学金の申請まで支援を行っています。特に、文部科学省が行っているトビタテ留学JAPAN!の申請については、申請書のサポートから面接練習まできめ細やかに支援しています。各種奨学金についても、日本学生支援機構（JASSO）、九大基金（短期留学支援）、学部独自の奨学金（教育学部学生短期海外活動支援制度）など、多くの奨学金を準備し、学生の海外経験を支援しています。

留学担当教員からのコメント

海外留学は、その学生の人生を変える大きな経験となります。学生の海外留学に関する不安や悩みをお聞きしながら、その学生にベストな留学となるよう細かくアドバイスを行います。また、面接が必要となっている奨学金については、面接対策などを行います。学生からの希望があれば、教育学部教員の海外の研究ネットワークの中で、研究者を紹介し、海外でスムーズに、教育学・教育心理学の教育が受けられるよう調整します。

木村 拓也教授

CERTIFICATION

資格取得

①教育職員免許状

教育学部では教師になるための教員免許を取得できます。教員免許のための授業が用意されていますので、卒業要件の単位とは別に、その授業の単位を修得する必要があります。教育学部で取得できる免許は、中学校一種（社会）と高等学校一種（地理歴史及び公民）です。諸手続きを経ることで、大学院で専修免許状を取得することもできます。

❖ 九大型教職科目の特徴

九州大学は、平成31年の再課程認定を機に、独自の教職課程を構築しました。教職課程の法定科目には含まれていないが、実際の教育現場で求められている、学校教育のグローバル化対応、ジェンダー・社会格差・インクルーシブ教育への対応、発達する最先端サイエンスを踏まえた進路指導、テスト評価への理解、教育実習以外の教育経験の獲得などを踏まえた講義を九大教職課程独自科目として設定しています。一部、基幹教育の科目と連携しながら、教職教養として必要な科目を1年次から履修することが可能となりました。

また、実務家教員から教職採用試験の対策講座（2次の面接や小論文の対策など）を受講することも可能です。

免許状取得のために必要とされる単位

九州大学は平成31年度に教職課程の再課程認定を受けたため、平成31年度入学者より修得すべき科目及び単位数が変更になりました。免許状を取得するためには、「教科及び教職に関する科目」及び「免許状施行規則第66条の6に定める科目」の必要単位数を修得しなければなりません。それぞれの単位は、原則として以下のように定められています。詳しくは教育学部学生便覧を参照してください。

【平成31年度以降入学者】

		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	28単位	24単位
	教育の基礎的理解に関する科目	10単位	10単位
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10単位	8単位
	教育実践に関する科目	7単位	5単位
	大学が独自に設定する科目※	4単位	12単位
免許法施行規則第66条の6に定める科目		「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」に相当する科目からそれぞれ2単位	

※大学が独自に設定する科目は以下の通り。

- 学校インターンシップⅠ・Ⅱ
- 教育学特論
- 教育心理学特論（教育・学校心理学）
- 教育テスト論
- アカデミックフロンティアⅠ・Ⅱ
- 女性学・男性学Ⅰ・Ⅱ
- ユニバーサルデザイン研究
- 教育基礎学入門
- 現代教育学入門
- 生涯学習概論
- 生涯学習概論演習
- 批判的教育学
- 批判的教育学演習
- 教授ストラテジー論
- 教授ストラテジー論演習
- 教育法社会学
- 教育法社会学演習
- 教育組織社会学
- 教育組織社会学演習
- 比較発達心理学講義Ⅰ（発達心理学）
- 発達臨床学講義Ⅱ（福祉心理学）
- 発達援助学演習（障害者・障害児心理学）
- 発達心理学Ⅰ演習（発達心理学）
- 道徳教育指導法Ⅰ・Ⅱ（高一種免許のみ）

教育実習について

教職科目としての教育実習は、九州大学においては「教育実習指導」「実習校での実習」「教職実践演習」から構成されています。教員になるためのインターンシップともいえる実習は、九州大学では付属校が無いため教職科目を履修する学生の母校などで行われます。実習は原則として4年生の6月から7月の2週間（中学校は3週間以上）にわたって行われますので、3年生の4月ごろから実習校を選び内諾を得る準備をする必要があります。

❖ 介護等体験について

中学校の教員免許状を取得しようとする場合は、「介護等体験」を行うことが義務付けられています。具体的には、特別支援学校や社会福祉施設等で、障がい者、高齢者の方々への介護・介助現場での体験を7日間かけて行うことになっています。介護等体験に関する説明会は、2年生の2月中旬、介護等体験事前指導を3年生の5月下旬に行っています。

学校インターンシップについて

九州大学における学校インターンシップとは、教職課程の学生が教員免許取得で該当する中学校、高等学校等において、実践的指導力を高めるために、教育活動や校務、部活動などの学校における活動全般について支援や補助業務を行う制度です。短期（1週間程度）、長期（3ヶ月間毎週決まった曜日）があり、母校の教育環境とは異なる学校に派遣されることで、自身の教育観を相対化し、幅広い教育対応力を習得することを目的とします。教育実習とは異なる学校種にインターンシップに行くことも可能です。

②社会教育主事・社会教育士

社会教育主事は社会教育を行う者に専門的・技術的な助言と指導を与える教育行政職に発令される任用資格です。公務員と教員になる場合、資格として活用されます。さらに令和2年4月施行の新制度により「社会教育士」の称号が付与され、履歴書や名刺への記載が認められることになりました。

社会教育士には学校、NPO、企業など社会の様々な場における学習支援の役割が期待されています。九州大学では令和3年度から新制度による運用をしています。

資格取得に必要な科目の例　6つの科目分類から24単位の取得が必要です。

生涯学習概論　4単位
生涯学習概論　社会教育行政
社会教育史　他

生涯学習支援論　4単位
社会教育方法論　社会教育編成論
マスコミュニケーションⅠⅡ 他

社会教育演習、社会教育課題研究　3単位
教育学フィールド研究入門　他

社会教育実習　1単位
教育学フィールド研究演習ⅠⅡ

社会教育経営論　4単位
まちづくり基礎論　社会教育施設論　他

社会教育特講　8単位
子ども文化論　他

③社会調査士

社会調査士とは、インタビュー調査やアンケート調査のプロ仕様の方法論を学び、統計や世論調査の結果を批判的に検討し、実際に調査を行うなど、社会調査の現場で必要な能力を持つ「社会調査の専門家」のための資格です。この資格を取得することで、情報社会の中、データの利活用を可能にし、社会でその専門スキルを活用して、調査のエキスパートになることができます。

なお、資格取得者は、大学院に進学し、より高度な分析手法を身につけることで、専門社会調査士の資格取得も可能になります。

資格取得に必要な科目　7つの科目分類から14単位の取得が必要です。

A 社会調査の基本的事項に関する科目
教育学フィールド研究入門

B 調査設計と実施方法に関する科目
教育調査法Ⅰ

C 基本的な資料とデータの分析に関する科目
教育情報処理

D 社会調査に必要な統計学に関する科目
教育統計学

E 量的データ解析の方法に関する科目
心理学統計法

F 質的な分析の方法に関する科目
教育調査法Ⅱ

G 社会調査の実習を中心とする科目
教育調査法Ⅰ演習、教育調査法Ⅱ演習

④公認心理師 Q&A

2017年（平成29年）9月、わが国初の心理職の国家資格について定めた公認心理師法が施行されました。公認心理師は、文部科学省と厚生労働省の両省が所管する名称独占資格であり、これからの心理臨床における高度専門職業人の基本条件となるものです。今後、医療、福祉、教育、司法、産業等々、様々な領域における心理的業務を行う汎用性のある資格として公認心理師の活躍が期待されます。九州大学教育学部では、文学部と連携して、公認心理師試験の受験資格を満たす科目・カリキュラムを開講します（図1）。

Q 公認心理師資格を得るには、どのような科目を履修する必要がありますか？

A 図1に示すように、まず学部の専門教育において省令で定める25科目を履修する必要があります。科目には、80時間以上の心理実習の科目も含まれます。さらに、九州大学では大学院人間環境学府（人間共生システム専攻臨床心理学指導・研究コース、または専門職学位課程実践臨床心理学専攻）において省令で定める10科目（450時間以上の心理実践実習を含む）を履修することにより、国家試験の受験資格を得ることができます。なお、平成29年度以前に入学した人には科目の特例措置があります。

Q 教育学部を卒業した後でも、公認心理師科目を再履修することは可能ですか？

A 在学中に省令で定める科目をすべて履修する必要があり、たとえ、公認心理師科目を履修できる大学院に進学したとしても学部科目の再履修は認められません。

Q 臨床心理士と公認心理師はどう違うのでしょうか？

A 臨床心理士は、従来、わが国で最も社会的にも認知されてきた心理職の民間資格です。箱庭療法など、わが国独特の臨床心理学の発展にも寄与してきました。公認心理師制度において、今後、臨床心理士資格がどのように位置付けられてゆくのかはまだ分かりませんが、公認心理師資格を得た人が臨床心理学をより深く学び探求するための目標となることが期待されます。九州大学では公認心理師と臨床心理士の両資格試験の受験資格を得ることができます（後者の受験資格には学部における科目履修の要件はありません）。

Q 九州大学における公認心理師教育の特色はなんでしょうか？

A 教職免許と同様に、資格の取得は九州大学の教育目標でありません。しかし、九州大学では総合大学の強みを活かして、他の部局とも連携して、大学院学府と連続した6年間の一貫教育を行います。系統的かつ高水準の心理学教育を通じて、現代の心理学研究の最先端に触れることにより、リサーチマインドの豊かな公認心理師に育ってほしいと願っています。

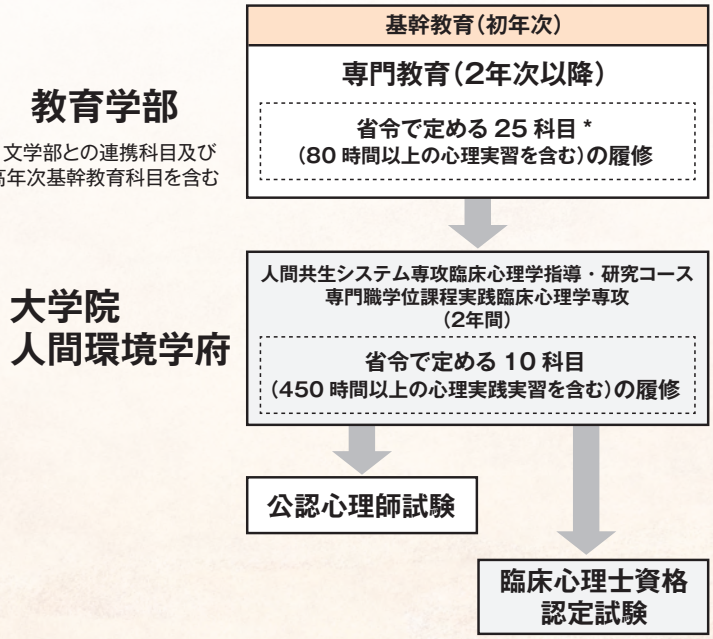


図1.公認心理師資格取得に至るプロセス。
九州大学では、公認心理師と臨床心理士の両資格試験の受験資格を得ることができます。

学生の声

教員を目指す私の、九州大学教育学部での４年間

長瀬　麻実さん　（2018年入学）

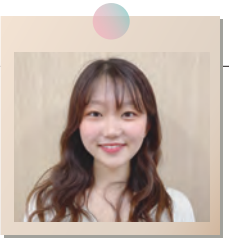
私は小さい頃から教師になりたいという夢があり、中学高校と進学するにつれて、教育への関心が一層高まっていきました。「大学では自分の関心をとことん追求したい」という気持ちが人一倍大きかったので、ひろい視点から教育について学ぶことと、教員免許を取得すること、この2つを両立できる九州大学の教育学部を選びました。

教員免許を取得するためには、1年生の頃から教職課程を修了することを見据えて履修を組む必要があります。教育学部の授業に加えて他学部の授業も受けることになるので、授業数の多さや内容の難しさに苦戦することもありました。しかし、そのおかげで教科の専門性も高めることができ、他学部生とのつながりも増えました。履修を計画的に組めば、学外での活動にも参加できます。教育学部では、学校やNPO、企業など学外における実習を取り入れた演習もあります。私はそうした演習でのフリースクールや私立学校でのインターンシップ、また、子どもと関わるサークルでの活動などに参加することで、楽しみながら子どもと関わる機会を増やすことができました。こうした経験は自らの学びになることはもちろん、教育実習や教員採用試験でも生かすことができたと思います。

教育実習は4年生で実施されます。私は3年生の時点で母校の中学校に依頼をして、4年生の5月から6月にかけて英語科での実習をさせていただきました。想定外のことが起きる日々で大変なときもありましたが、毎日できるだけ多くの時間を生徒とともに過ごし、実習先の先生方に手厚くご指導いただいて、無事に実習をやり遂げることができました。教師になるという覚悟ができた、3週間でした。

教員採用試験は、実習がおわったらすぐに始まります。独学での勉強で不安はありましたが、大学の教員採用試験対策講座での、先生方のサポートが支えになりました。その結果、中高英語の免許を取得して無事に第一志望の公立中学校の教員として現役合格することができました。

九州大学教育学部での4年間、教師を目指す/目指さないに関係なく、ひろく「教育」に関心をよせる学部の仲間と出会い、議論をする中で、たくさんの気づきや発見がありました。大学入学前に私が想像していた以上に、多角的な視点から学びを深める環境が整っていることを実感しています。みなさんがたくさんの人や学びとの出会いとともに、充実した大学生活を迎えられることを願っています!



公認心理師を目指して

荒牧　弓雅さん　（2018年入学）

教育学部では、2年次から教育学、心理学の専門的な学びがスタートし、3年次に「教育学系」と「教育心理学系」のどちらかを選択して学びを深めていきます。私は大学入学以前から心理学を学ぶことを志していたこともあり、教育心理学系を選択しました。とはいえ、必修科目以外は興味のある講義を自分で選択しますので、どちらの系の講義も受けることができます。一口に「教育心理学系」といっても、学べることは多岐にわたり、どれもが知的好奇心をくすぐるものばかりです。高校までの学習とは異質で、必ずしも正解があるわけではない学びを体験して、ますますこの学問に惹かれていきました。

講義を受けながら自分の関心のある領域を探り、3年次には自ら決めたテーマのもと心理学実験を行います。先行研究をもとに仮説を立て、研究をデザインすることから、実験協力の呼びかけやデータの統計的処理、考察まで行います。私はオンラインコミュニケーションをテーマとし、質問紙調査とオンライン上での実験を行いました。心理学実験では、「心」を科学として扱ううえで必須である論理的な思考や心理統計のスキルを身につけることが出来ました。

教育学部には、2018年より開始された公認心理師（心理職の国家資格）のカリキュラムがあります。このカリキュラムに沿って進み、大学院まで修了すると公認心理師試験の受験資格を得ることが出来ます。公認心理師をめざす私にはぴったりのカリキュラムで、先生方の手厚いサポートがあります。学部中に履修しなければならない科目では公認心理師に必要な知識を吸収し、4年次では学外の実習に参加します。コロナ禍で、先が読めない状況のなか、オンラインでの対応や実習期間の調整をしていただいたおかげで無事に履修することが出来ました。私は大学病院精神科と特別支援学校に実習に行きました。テキストベースの学習では感じることができない現場の雰囲気を体感し、患者さんや子どもたちと直接関わることができました。精神科で働く公認心理師の先生とお話して、これまでどこか曖昧だった自分が働いているイメージが鮮明になりました。

大学では発達支援を必要とする子どものグループセラピーにも参加しています。これは遊びを通した臨床実践であり、先生方や大学院の先輩方の指導のもと臨床経験を積むことができます。学部生のうちから実践的な活動に参加できたことは、必ず今後の成長の糧になると信じています。

教育学部における学び

サティティサンウォン・サーリサー（Satitisungworn Sarisa）さん　（2020年入学）

私は、教育学部は教師になるための学部だという印象を持っていました。しかし、高校3年生の時にリサーチトライアルに参加したことで、九州大学の教育学部は教員養成を目的とした学部ではないことを知りました。九州大学教育学部は人間の発達や形成に関わる問題を学ぶことができる学部です。この経験から私は教育学部に入学したいと考え、国際入試を通して入学しました。

学部に限らず、1年生は基幹教育科目を受けるというカリキュラムになっています。基幹教育科目では幅広い知識を身につけられるような多くの科目を受けられることになっています。私は教育学部の必修科目以外の講義を受けていました。その中で一番印象に残ったのは「医療倫理学」でした。医療といえば医学部のことで教育学に関係ないと考えてしまうかもしれませんが、倫理学の知識を身につけることによって教育のあり方をもう一度考えることができました。基幹教育科目は我々の視野を広げるものであり、専門科目を学ぶ前の基礎となると言えると考えています。

学生の声

2年生では専門科目の講義や演習を受けられるようになりました。私にとって専門科目は基幹教育科目よりも難しいです。しかし、自分が興味を持っている分野をより深く勉強することができるのでとても充実しています。専門科目は心理学系と教育学系があり、両方の系の科目を履修する必要があります。そこで私は様々な科目を履修してみました。私は入学時から心理学系に進むと考えていましたが、勉強すればするほど教育学系の楽しさを感じ、今では教育学系に進みたいと考えております。教育学部では心理学や教育学の科目に触れることができ、興味深いテーマをどんどん見つけることができます。これは教育学部の特徴ではないでしょうか。

現在、私は研究室やコースをまだ決めていません。自分がどの研究室に行きたいのか、まだわかりませんがこれから決めていきたいと考えています。教育学部の勉強は言語の壁もあり大変なことが少ないとは言いきれません。しかし、友達や周りの人の支えでいろんなことを乗り越えられました。これから3年生になり、所属する研究室の選択がありますが、私は母国や日本の教育に興味があり、それについて専門的に探究していきたいと考えています。

誰にでも開かれた海外とのつながり

酒井　拓平さん　（2019年入学）

九州大学教育学部では、海外の多数の教育機関と関係を持っており、学生もそのつながりを利用して様々な経験をすることができます。私は、学部1年次の冬、中国の上海と南京に1週間程度滞在する「overseas fieldwork」に応募しました。このフィールドワークでは、九大教育学部の協定校である華東師範大や南京師範大との交流、南京中国科挙博物館への訪問など、様々なプログラムが用意されており、中国の教育に触れる絶好のチャンスでした。私は日本から一度も出たことがなかったこともあり、当時学部1年生ながらも迷わず応募しました。それから現地での研究発表のため、中国からの留学生の先輩などから助言を受けつつ、研究を進めていきました。私が対象としたのは、学歴競争が激しい中国での教員の評価制度についてです。残念ながら、フィールドワークの準備段階で新型コロナウイルスが流行し、現地へ行くことはできませんでしたが、それまでに得た経験や知識は、現在教育学部の授業を受講する上でとても役に立っています。学部3年次の後期には、南京師範大とのオンライン交流会に参加し、互いの国の教育制度や状況について発表したり、意見を交わし合う機会もありました。

このほかにも、タイやベトナムの学校を訪問するプログラム、台湾を訪問するプログラムなど、学部生（1～4年生）が参加できるものがたくさん用意されています。

私は、タイで日本語を専攻している大学生らと協力し、タイの中学生にオンラインで日本語を教える、という九大教育学部の企画の立ち上げにも半年ほど携わりました。タイの中学生は、これまで日本語を学んできた経験がないため、どのように彼/彼女らとコミュニケーションをとるかが大きな課題となりました。また、集中力のないタイの中学生が興味を持ち、最後まで楽しく授業を受けるにはどうすればよいかということも考えなければなりませんでした。タイの学校に一度も行ったことのない私にとっては、とても難しい課題でしたが、タイの大学生と意見を交換しながら、日本のアニメや食事を用いたりする工夫をしました。生徒たちが元気にリアクションをしてくれると嬉しかったですし、生徒たちの興味を引く授業というものは、国によってそう大きく異なるものではないのかもしれません。

九州大学教育学部では、誰にでも、身近に海外とつながる機会が用意されています。全ては自分のやる気や興味次第です。私は日本の教育史を専門に研究していますが、もし海外の教育を専門に研究したいという人がいれば、もっとたくさんの経験ができることでしょう（もちろんそうではない人も、ぜひ積極的に様々な機会を利用してくださいね）。やる気や興味があれば、それに応えてくれるプログラムや活動、教員の方々が、九大教育学部には揃っています。

世界とつながる学び

栗原　菜摘さん　（2020年学部卒業）

私は、「大学では1年間の留学がしたい」という思いを持って九大教育学部に入学しました。きっかけは、高校の時、友人の留学体験談に刺激を受けたことでした。また、当時は世界の教育実践に興味を持っており、留学先ではその国の幼児・初等教育について学びたいと考えていました。

そのため、学部時代には世界の教育事情について学べる授業を中心に受講しました。九大教育学部では、様々な授業で、他国の学校の事例や外国地域の教育制度に触れる機会があります。印象に残っているのは、外国の教育をテーマにしたゼミ形式の授業です。参加学生一人一人が、自身が関心を持つ国の教育について調べ、発表する授業でした。それぞれが持つ観点から、様々な国の教育の事例を検討するのはとても面白かったです。教育について論じることの難しさも目の当たりにしましたが、授業において留学前に世界の教育について学び、その関心を高められたことは幸運でした。

北欧の教育に特に関心を持っていた私は、スウェーデンを留学先として選択し、3年後期から留学をスタートさせました。留学先の大学では幼児教育の授業を中心に受講し、保育士を志すクラスメートに囲まれて学習を進めていきました。授業はフィールドワークやグループワークが中心で、全員で湖に出かけて水中生物を観察しに行くこともありました。授業で用いられた教科書はもちろんですが、授業スタイルや生徒との会話からも、幼児教育に対する理念や考え方を学ぶことができたように感じています。

一方、私自身が留学生として過ごした滞在中の経験から、高等教育機関における留学生の受け入れ態勢にも強く関心を抱くようになりました。そして帰国後は研究のテーマを大学における留学生の受け入れ態勢に定め、卒論を執筆の執筆に取り組みました。短期間での卒論執筆を経て、より留学生への理解を深めるために院進学を決めた次第です。現在所属している研究室では、留学生メンバーとの交流を楽しみながら日々研究に励んでいます。大学生活を通じて世界の教育や海外からの学生と接する機会に恵まれていたことは、私の学びと好奇心を強く支えてくれたように感じます。世界の教育に関心のある方は、学びを深める場として九大教育学部をぜひ検討してみてください。

FACILITY

教育学部の施設紹介

行動実験棟

心理学には、赤ちゃんや幼児の心の発達を明らかにする発達心理学、人と人とのつながりや集団における人の心理や行動に着目する社会心理学、教育における学習や動機づけを扱う教育心理学など、多様な領域があります。行動実験棟ではそれぞれの領域ごとに、心のメカニズムを解明するための実験を行っています。

九州大学大学院人間環境学府附属 総合臨床心理センター

私たちがいま生活しているこの社会は、年々複雑になり多様になり、また変化のスピードもどんどん速くなっていっています。そんな社会の中で「こころの問題」もまたより複雑に、そして多様になっていっています。九州大学総合臨床心理センターは、そのようなこころの問題で困ったり悩んだり苦しんだりして何らかの形で助けを必要としている方々とともに、その問題に向き合い、ほどき、それを解いていく手がかりを見つけるための場として、臨床心理相談活動を行っています。

学生サロン

九州大学教育学部では、学生が授業準備、自主勉強会、各種打ち合わせができるように、学生サロンが設置されています。多くの学生が日夜利用し、日々、教育学・教育心理学の議論の声が絶えない賑やかな場所になっています。少人数教育のいいところで、全ての学生が顔馴染みという関係性の中で、4年間心ゆくまで教育学・教育心理学の勉強ができる環境が整っています。

HISTORY

教育学部の沿革

九州大学教育学部は 1949（昭和 24）年 5 月に法文学部教育学講座を母胎に設置された学部です。
当初は敗戦後の新しい民主主義に基づく社会を構築するために教育学研究の研究者と教育指導者を養成すること、
および、教職課程科目を全学に提供することを目的として設置されました。その後の教育界の変化に伴い
常に教育社会の中心で活躍できる人材を養成してきました。

年	月	実績
1925（大正14）	5	九州帝国大学法文学部に教育学講座が設置される。松濤泰巌教授が講座を担当する（1943年まで在籍）。
1949（昭和24）	5	九州大学教育学部が設置（国立学校設置法公布に伴う）。
	10	第3期教育指導者講習（IFEL）開設。
1950（昭和25）	2	文学部長干潟龍祥が教育学部長併任となる。
	4	教育心理学第一講座設置。
1951（昭和26）	3	九州大学教育学部規則制定。平塚益徳教授、原俊之講師、文学部から教育学部へ配置転換。
	4	教育史講座、教育心理学第二講座設置。教育学部の授業が開始される。
	6	九州大学学生の参加した教育実習が初実施。
1952（昭和27）	4	比較教育学講座、教育技術学講座設置。
1953（昭和28）	4	教育行財政学講座設置。「教育と医学の会」結成。大学院教育学研究科設置。比較教育文化研究所創立委員会発足。
	5	平塚益徳が教育学部長選挙内規による初めての学部長に就任。
1954（昭和29）	4	教育社会学講座設置。
	7	教育学部、新館（箱崎小石町）へ移転。
1955（昭和30）	7	教育学部附属比較教育文化研究施設設置。
1957（昭和32）	3	『比較教育文化研究施設紀要』第1号発行。
	4	比較教育文化研究施設に第二部門が設置。教科書センターが2階から3階に移転。
1961（昭和36）	4	集団力学講座設置。
1962（昭和37）	4	教育指導学講座設置。
1963（昭和38）		教育技術学講座を教育方法学講座に、教育行財政学講座を教育行政学講座に、それぞれ改称する。
1966（昭和41）	4	社会教育学講座設置。入学定員増（25人から35人へ）。教育学部同窓会発足。
1972（昭和47）	3	心理棟完成。
1975（昭和50）	4	障害児童学講座設置。入学生定員増（35人から40人へ）。『心理臨床研究』第1号発行。
1978（昭和53）	4	教育行政学講座、比較教育学講座が実験講座となる。
1981（昭和56）	4	心理教育相談室が文部省により認可。
1982（昭和57）	4	心理教育相談室が国の特別施設として認可される。
1985（昭和60）	2	教職課程委員会（全学）設置。（現在、教職課程専門委員会が教育企画委員会のもとに置かれている。）
1986（昭和61）	4	教育学部附属障害児臨床センター設置。
1987（昭和62）	4	入学定員増（40人から50人へ）。
1988（昭和63）	3	教育学部附属障害児臨床センター竣工。
1991（平成 3）	4	入学定員増（50人から60人へ）。
1992（平成 4）	4	生涯発達学講座設置。
1994（平成 6）	4	大学院修士課程心理臨床コース（第二類）開始。教育社会史講座（教育史講座の後身）設置。
1995（平成 7）	4	心理教育相談室と障害児臨床センターが統合し、発達臨床心理センターとなる。入学定員減（60人から50人へ）。
	7	比較教育文化研究施設40周年記念国際シンポジウム開催。
1996（平成 8）	4	大学院教育学研究科で社会人特別選抜が開始される。
1998（平成10）	4	大学院人間環境学研究科設置。
2000（平成12）	4	大学院人間環境学府附属発達臨床心理センター設置。
		学府研究院制度に基づき、人間環境学研究院・人間環境学府を設置。
2018（平成30）	4	副専攻プログラム・国際コースの開始。
	4	入学定員減（46人へ）
		公認心理師資格カリキュラム開始
	10	伊都キャンパスに移転

教育学部 Q&A

Q 教育学部の教育心理学と文学部の心理学とは、どのように違うのですか。

A 文学部の心理学は1つの講座で、主に成人を対象にして人間の知覚、運動、認知などを研究しています。私たちの教育学部の教育心理学は教育心理学、発達心理学、社会心理学、人間環境心理学、カウンセリング、発達臨床学、生涯発達学、発達相談学という8つの部門から成り立っています。そして子どもの成長、発達、適応に関する心理学的研究だけでなく、身体の不自由な子どもたちに関する診断、治療に関しての心理学研究をも行って、広く総合科学的に研究し、教育しています。

Q 自分が選んだ系やコース以外の系やコースの勉強もすることができますか。

A もちろんできます。入学して2年生になると、教育学系に進むか教育心理学系に進むか、また、その系のなかの、どちらのコースに進むかを決めます。そして自分で選んだ系やコースの科目を中心に勉強していきますが、別の系やコースの科目でも自由に履修することができます（ただし、一部の特別な科目は除く）。

Q 九州大学の教育学部と他の大学の教員養成系学部とは違うのですか。

A 国立大学法人の教育学部には2種類あって、教員養成を目的とした教育学部と、学問としての教育学や教育心理学の研究・教育を目的とした教育学部があります。九州大学の教育学部は後者です。東京大学や京都大学の教育学部と同じように、教育学や教育心理学の研究・教育を目的としています。

アクセスマップ ACCESS MAP

国立大学法人 九州大学 教育学部
人文社会科学系事務部学務課（教育学部担当）
〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL: 092-802-6362　FAX: 092-802-6396

九州大学

国立大学法人 九州大学 教育学部
人文社会科学系事務部学務課(教育学部担当)

School of Education, Kyushu University
九州大学教育学部

〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL: 092.802.6362 / FAX: 092.802.6396

http://education.kyushu-u.ac.jp